

科目名	REL210: キリスト教文化入門					担当教員	丹木 博一	
開講期	秋	開講時限	火金3限	研究室	4214	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	1, 4	キリスト教ヒューマンイズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					1-①, 4-②	
キーワード	聖書、イエス・キリスト、信仰、愛、倫理、文化、芸術、宗教間対話							
授業の概要	複数講師による輪講形式で、キリスト教文化の諸相について講義する。イエスは何を語り何を行ったのか、クリスチャンが信じているのはどのようなことかを明らかにし、キリスト教の歴史を踏まえながら、全世界に多大な影響を及ぼすキリスト教文化を多面的に考察する。							
達成目標	キリスト教とはどんな宗教であるかを正しく理解し、表現できる。また、キリスト教文化全般について幅広い関心を持ち、自ら考察を進めることができるようになる。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の講義を通してキリスト教の信仰内容とその歴史を理解し、キリスト教文化の諸相について自分自身の関心と問題意識を論述できる。 ・キリスト教文化の諸相を理解し、キリスト教の特徴について問題提起ができる。 ・キリスト教文化に関し自らの選んだテーマについて研究成果をまとめ、分かりやすく発表することができる。 							
評価方法	授業毎の事前課題の提出 (15%)、授業毎のリアクションペーパー (15%)、研究発表 (20%)、期末レポート (2,500字以上) (50%)							
評価基準	<p>授業毎の課題：事前に指示した通り課題を行い提出できたかどうか。</p> <p>リアクションペーパー：講義内容について問題意識を持って論述展開できるかどうか。</p> <p>研究発表：キリスト教に関する自由研究の成果を分かりやすく発表できるかどうか。</p> <p>期末レポート：最低一冊参考文献を読み、関心を寄せるテーマについて問いを提起し、先行研究を踏まえつつ理由を挙げて自分の考えを自分の言葉で論じるかどうか。</p>							
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	ガイダンス：講義内容と課題の説明 宗教とは何か	講義・リアクションペーパー	自分の宗教観を振り返る。配布資料の復習
2	キリスト教の基本的特徴	講義・リアクションペーパー	テキスト①はじめに予習 配布資料の復習
3	イエスの生涯	講義・DVD視聴・リアクションペーパー	テキスト②マルコ福音書通読。配布資料の復習
4	旧約聖書(1) モーセ五書と歴史書	講義・リアクションペーパー	テキスト①第1章前半予習 配布資料の復習
5	旧約聖書(2) 知恵文学と預言書	講義・リアクションペーパー	テキスト①第1章後半予習 配布資料の復習
6	新約聖書(1) 福音書	講義・リアクションペーパー	テキスト①第2章前半予習 配布資料の復習
7	新約聖書(2) パウロの書簡	講義・リアクションペーパー	テキスト①第2章後半予習 配布資料の復習
8	キリスト教の歴史 その1 古代から中世まで	講義・DVD視聴・リアクションペーパー	テキスト①第3章の予習 配布資料の復習
9	キリスト教の歴史 その2 宗教改革から現代まで	講義・リアクションペーパー	テキスト①第4章の予習 配布資料の復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	フランシスコ・ザビエルと上智大学	講義・DVD視聴・リアクションペーパー	テキスト 第5章の予習 配布資料の復習
11	ミサ典礼	講義・DVD視聴・リアクションペーパー	ミサの式次第を調べる。 配布資料の復習
12	イエズス会の教育とイグナチオの霊性	講義・リアクションペーパー	本学の教育理念をまとめる。 配布資料の復習
13	修道院文化	講義・DVD視聴・リアクションペーパー	修道院の歴史について予習 配布資料の復習
14	キリスト教音楽(1)	講義・音楽鑑賞・リアクションペーパー	キリストと音楽の関係を調べる。 配布資料の復習
15	暦・シンボル・伝説	講義・リアクションペーパー	キリスト教のシンボルを調べる。 配布資料の復習
16	キリスト教音楽(2)	講義・音楽鑑賞・リアクションペーパー	クリスマスの音楽について調べる。 配布資料の復習
17	キリスト教倫理 その1 差別と戦争への問い	講義・DVD視聴・リアクションペーパー	テキスト②マタイ福音書前半の予習・配布資料の復習
18	キリスト教倫理 その2 平和への願いと愛の教え	講義・DVD視聴・リアクションペーパー	テキスト②マタイ福音書後半の予習・配布資料の復習
19	キリスト教美術 その1 神を描くことをめぐる問題	講義・美術鑑賞・リアクションペーパー	テキスト①第6章前半の予習・配布資料の復習
20	キリスト教美術 その2 東方正教会とイコン	講義・美術鑑賞・リアクションペーパー	テキスト①第6章後半の予習・配布資料の復習
21	時代の必要に答えた人びと(1) アシジの聖フランシスコ	講義・DVD視聴・リアクションペーパー	フランシスコについて調べる。 配布資料の復習
22	時代の必要に答えた人びと(2) マザー・テレサ	講義・DVD視聴・リアクションペーパー	マザー・テレサについて調べる。 配布資料の復習
23	キリスト教と仏教 その1 自己の探求	講義・リアクションペーパー	仏教の基本的教えについて調べる。 配布資料の復習
24	キリスト教と仏教 その2 生きる意味への問い	講義・リアクションペーパー	人生の苦しみの意味について考える。 配布資料の復習
25	キリスト教と哲学 その1 信仰と理性	講義・リアクションペーパー	テキスト①第7章前半の予習・資料の復習
26	キリスト教と哲学 その2 啓示と救い	講義・リアクションペーパー	テキスト①第7章後半の予習・配布資料の復習
27	研究発表(1) 学生	発表と講評・リアクションペーパー	研究発表の準備 期末レポート提出
28	研究発表(2) 学生	発表と講評・リアクションペーパー	研究発表の準備
29	研究発表(3) 学生	発表と講評・リアクションペーパー	研究発表の準備
30	キリスト教と現代	講義・リアペ・レポート返却&講評	テキスト①終わりに予習

テキスト	① 山賀哲雄『キリスト教入門』(岩波ジュニア新書) ② 『新約聖書』(「人間学I」で配布したもの)
参考書	ペトロ・ネメシエギ『キリスト教とは何か』(女子パウロ会) 『井上洋治著作選集』(日本基督教団出版局)
その他 特記事項	授業には主体的な関心を持って参加して欲しい。なお講師の都合により、授業内容及び順序に変更が生じる可能性がある。

科目名	IDS210: 異文化間コミュニケーション					担当教員	C. Oliver	
開講期	春	開講時限	火金3限	研究室	4205	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	3, 4	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					3-④, 4-②	
キーワード	intercultural communication, linguistics, social psychology, anthropology, critical thinking							
授業の概要	This course provides an introduction to intercultural communication as an area of study. Readings and lectures will cover basic definitions, concepts, and issues related to intercultural communication. As regular homework, students will keep a record of their own intercultural communication experiences. We will also carry out one lengthy intercultural simulation in class. Lectures, readings, homework, and tests for this course will be in English.							
達成目標	Students will learn to understand “intercultural communication” (ICC) using concepts coming from linguistics, social psychology, and anthropology; to describe and analyze their own experiences of ICC; and to think critically about ICC in relation to problems in modern societies.							
到達目標	By the end of the semester, students will be able to understand key concepts related to ICC drawn from linguistics, social psychology, and anthropology and how they apply to specific examples; factually describe their own recent experiences of ICC and relate those experiences to concepts discussed in class; and explain, in writing, ways in which specific situations of ICC found in the world today are related to broader social and historical contexts and issues.							
評価方法	Participation 20%, Homework 40%, Tests 40%.							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> Participation: active participation in everyday class activities, including lectures and discussions; responses in in-class writing activities that demonstrate engagement with class content. Homework: submitted on time and according to instructions, thoroughly completed, provides factual description where required, demonstrates appropriate application of concepts covered in class. Tests: demonstrate ability to understand key concepts related to ICC and how they apply to specific examples, demonstrate ability to explain ways that specific situations of intercultural communication are related to broader social and historical contexts and issues. 							
準備学修の時間	For each 90-minute class session of this course, an average of 180 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	Course overview	Lecture	Read course syllabus thoroughly, review class notes
2	Defining intercultural communication	Lecture, pair work	Read p. 34, review syllabus & class notes
3	“Culture” in intercultural communication	Lecture, pair work	Read pp. 9-10, 12-13; skim pp. 13-27; review class notes
4	Features of human communication: basic concepts	Lecture, pair work	Read pp. 54-57, 68-71; review class notes
5	Features of human communication: meaning and context	Lecture, pair work	Read pp. 54-57, 68-71; review class notes
6	Communication and language: language and thought	Lecture, pair work	Write “ICC Experience” homework; read pp. 77-79, 83
7	Communication and language: aspects of meaning	Lecture, pair work	Read pp. 77-79, 83; review class notes
8	Non-verbal communication: silence	Lecture, pair work	Read pp. 86-87, 91-93; skim other pages in Ch. 9

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	Non-verbal communication: functions	Lecture, pair work	Read pp. 86-87, 91-93; skim other pages in Ch. 9
10	Edward T. Hall: the first interculturalist	Lecture, pair work	Read pp. 49-50, 56, 96, 133; Write "ICC Experience" HW
11	Stereotypes: basic concepts	Lecture, pair work	Read pp. 152-153; review class notes
12	Stereotypes: aspects and effects	Lecture, pair work	Read pp. 152-153; review class notes
13	Values: basic concepts	Lecture, pair work	Read pp. 16-19, 42-49; review class notes
14	Values: kinds of values	Lecture, pair work	Write "ICC Experience" HW & "Values" HW
15	Culture shock: definition, symptoms, varieties	Lecture, pair work	Read pp. 158-165; review class notes
16	Communication "events": basic concepts	Lecture, pair work	Write "culture shock" homework; review class notes
17	Communication "events": dimensions of norms	Lecture, pair work	Review class notes
18	Intercultural training: basic elements	Lecture, pair work	Read pp. 186-187; write "ICC Experience" homework
19	Intercultural training: intercultural simulations	Pair work, lecture	Read Ch. 16, especially pp. 186-187; review class notes
20	Review; Test #1	Lecture, written exam	Study for test
21	Intercultural simulation: do in class	Small-group discussion	Read handouts about simulation
22	Intercultural simulation: follow-up discussion	Small-group discussion, lecture	Write "ICC Experience" homework; review class notes
23	Social and historical contexts of intercultural communication: Quebec	Lecture, pair work	Review class notes
24	Social and historical contexts of intercultural communication: U.S. South	Lecture, pair work	Review class notes
25	Social and historical contexts of intercultural communication: American Indians	Lecture, pair work	Review class notes
26	Power and inequality in intercultural communication	Lecture, pair work	Write "ICC Experience" homework; review class notes
27	Return Test #1 and go over results; Practical implications for the study of ICC	Lecture, pair work	Review class notes
28	Preparation for Test #2; Paths toward better knowledge and understanding of others	Lecture, pair work	Review textbook pages covered, handouts, class notes
29	Review, Test #2	Lecture, written exam	Study for test
30	Return Test #2 and go over results; semester recap	Lecture, small-group discussion	Write "ICC Experience" homework; review class notes

テキスト	Hidasi Judit. <i>Intercultural Communication: An Outline</i> (三元社).
参考書	石井 敏、久米 昭元、長谷川 典子、桜木 俊行、& 石黒 武人『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』(有斐閣)
その他特記事項	Lectures, readings, homework, and tests for this course will be in English.

科目名	LIT201: 英文学概論					担当教員	飯田 純也	
開講期	春	開講時限	火金4限	研究室	4216	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得					4-②	
キーワード	物語、聖書、映画、物語、モラル、パラブル、歴史、社会、抑圧、貧困、暴力、女性							
授業の概要	文学の裾野を広げ、広義の物語を通して人間と社会の関係性を研究する。物語の意義は問題提起にある。提起される問題は複数の学問領域に横断的に関わる。授業では、英語圏を代表する小説を取り上げ、現代とのかかわりで、物語が描く人間と社会を批判的に分析する。準備学習として、事前の指定DVD資料の視聴が求められる。小論文と期末レポートを書くためには、準備学習と授業を通してまとめられたノートが重要になる。							
達成目標	物語論の視点から、文学研究の意義と方法を学び、文学研究を通じて英語文化圏の歴史や社会を理解し、同時に文化を批判的に見る視座を獲得することを目標とする。さらに、毎回の講義内容を基に、自らの意見を事前配布資料と照らし合わせながら、小論文にまとめる能力を身につける。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語文化圏を代表する文学作品を物語として分析、批判、評価することができる 2. 作品が描く歴史的・社会的問題や課題を理解することができる 3. 作品で扱われている諸問題を人文科学、社会科学の視点から考えることができる 4. 問題意識をもって文学作品を見る習慣ができる 5. 議論をまとめる能力を身につけることができる 							
評価方法	小論文(8回提出で計40%)で歴史的、社会的背景を理解できているか、作品を分析、批判、評価できているか、期末レポート(30%)で歴史的、社会的視点に立ち、問題を批判的に論じることができているか、根拠を示し自分のことばで語っているか、シャトルカード(30%)で問題意識をもって文学作品を見る習慣ができているか見る。							
評価基準	詳細は初回授業時に説明する。							
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	授業紹介 ジャンルではなく物語 研究倫理の説明	講義、質疑応答、ペア ワーク	課題DVDのリストを基に入 手先を検討する
2	物語論:エンディングは問題提起(1) <i>Citizen Kane</i> (1941 movie)	講義、質疑応答	課題DVD視聴、課題資料下 調べ、筋と要点をノート
3	物語論:エンディングは問題提起(2) <i>Black Orpheus</i> (1959 movie)	講義、質疑応答、グル ープ討論	課題DVD視聴、課題資料下 調べ、筋と要点をノート
4	物語論:エンディングは問題提起(3) <i>A Man and a Woman</i> (1966 movie)	講義、質疑応答、グル ープ討論	小論文 no.1 の準備(提出は 次回授業時)
5	聖書と文学 パラブルとは何か	講義、質疑応答	課題資料下調べ、筋と要点を ノート
6	聖書のパラブル アブサローム物語(英文)	講義、質疑応答、グル ープ討論	小論文 no.2 の準備(提出は 次回授業時)
7	暴力を繰り返す社会のパラブル(1) <i>Romeo and Juliet</i>	講義、質疑応答	課題DVD視聴、課題資料下 調べ、筋と要点をノート
8	暴力を繰り返す社会のパラブル(2) <i>Tristan and Isolde</i>	講義、質疑応答、グル ープ討論	小論文 no.3 の準備(提出は 次回授業時)
9	作品研究 <i>A Passage to India</i> (1) 分析の手がかり	講義、質疑応答	課題DVD視聴、課題資料下 調べ、筋と要点をノート

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	作品研究 <i>A Passage to India</i> (2) 討論	質疑応答、グループ討論	小論文 no. 4 の準備(提出は次回授業時)
11	作品研究 <i>Vanity Fair</i> (1) 分析の手がかり	講義、質疑応答	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
12	作品研究 <i>Vanity Fair</i> (2) 討論	質疑応答、グループ討論	小論文 no. 5 の準備(提出は次回授業時)
13	作品研究 <i>Tess of the d'Urbervilles</i> (1) 分析の手がかり	講義、質疑応答	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
14	作品研究 <i>Tess of the d'Urbervilles</i> (2) 討論	質疑応答、グループ討論	小論文 no. 6 の準備(提出は次回授業時)
15	作家研究 Charles Dickens: <i>David Copperfield</i>	講義、質疑応答	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
16	作家研究 Charles Dickens: <i>Nicholas Nickleby</i>	質疑応答、グループ討論	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
17	作家研究 Charles Dickens: <i>Oliver Twist</i>	講義、質疑応答	小論文 no. 7 の準備(提出は次回授業時)
18	作家研究 Jane Austen: <i>Sense and Sensibility</i>	講義、質疑応答、グループ討論	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
19	作家研究 Jane Austen: <i>Pride and Prejudice</i>	講義、質疑応答、グループ討論	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
20	作家研究 Jane Austen: <i>Mansfield Park</i>	講義、質疑応答	小論文 no. 8 の準備(提出は次回授業時)
21	英国社会研究 (1) 奴隷貿易と <i>Jane Eyre</i>	講義、質疑応答、グループ討論	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
22	英国社会研究 (2) 奴隷制度廃止運動と <i>Wuthering Heights</i>	講義、質疑応答、グループ討論	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
23	米国社会研究 (1) ピューリタン社会と <i>The Scarlet Letter</i>	講義、質疑応答	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
24	米国社会研究 (2) インディアン戦争と <i>The Scarlet Letter</i>	講義、質疑応答、グループ討論	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
25	米国社会研究 (3) 資本主義社会と <i>The Great Gatsby</i>	講義、質疑応答	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
26	英米社会研究 総論	講義、質疑応答、グループ討論	小論文 no. 9 の準備(提出は次回授業時)
27	授業のふりかえり 講義と討論	グループワークで相互発表、相互評価	期末レポートの準備 作品、テーマの決定
28	期末レポート作成指導 研究倫理の重要性	グループワークで相互発表、相互評価	発表と期末レポートの準備
29	発表と期末レポート作成準備	ボランティア学生の発表、講評	発表の準備と期末レポートの提出
30	発表と期末レポート講評	ボランティア学生の発表、講評	発表の準備

テキスト	テキストは特に使用しない。授業で扱う作品の英文資料(課題資料)を事前に配布する。
参考書	Herman, David, ed. <i>The Cambridge Companion to Narrative</i> (Cambridge University Press, 2007).
その他 特記事項	この授業では世界史の知識が前提となるので、特に 18 世紀以降の英米を中心とする歴史を復習すること。

科目名	LIT201: 英文学概論					担当教員	平野 幸治	
開講期	秋	開講時限	火金3限	研究室	4210	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-②	
キーワード	parable & narrative (寓話と物語), bildungsroman (教養小説), social issues (社会問題)							
授業の概要	英文学をはじめは「ジャンル」を切り口に詩、劇、小説を取り上げ、次に「個人と社会」という視点を切り口にして作品の中の伝統、文化、風俗、歴史の意味や影響を考察する。作品のプロット・サマリーを英語で読み日本語で要約、指示されたDVDを見てメモを取る。グループでディスカッションや成果の発表を行う。教員の一方通行の講義ではない授業を展開する。発問の仕方、研究の方法論と知識を日常的に検証する。							
達成目標	この授業は、英語で書かれたプロット・サマリーを毎回配布し、学生が英文学研究に必要な用語・概念を理解し、具体的な作品を通して英米文学の歴史や文化を把握し、英文学の特徴を述べる事が出来るようになり、さらに文学作品のテーマや社会問題、比喩を理解して討論し、自分の意見を人前で述べ、論文が書けるようになることを目指す。							
到達目標	学期末には学生は、①グループディスカッションにおいて他者の意見を聞いて適切に質問や意見を述べる事が出来るようになる。②1,500字程度の文章が書け、発表出来るようになる。③十分な具体例や作品からの引用を用いて、研究者としての倫理を踏まえた8,000字程度の日本語の論文が書けるようになる。							
評価方法	①授業内のグループディスカッションの報告専用フォームの提出12回(フォーム提出2%×12回=24%) ②授業内で個人の課題提出(1,500字程度)6回(課題6%×6=36%) ③研究者としての倫理を踏まえた最終課題(8,000字)の提出(10%) ④毎授業の終了時に回収するShuttle Cardに授業に関する質問や意見を適切な日本語で述べる(1%×30回=30%)。							
評価基準	授業の初回時に詳述します。							
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	イントロダクション: 英文学概論の目的と授業の進め方	講義、DVDの視聴用リストの配布	プリントの下調べとDVD視聴メモ作成
2	【文学ジャンルと物語論】小説とは?	講義と作品理解のための相関図の説明	プリントの下調べとDVD視聴メモ作成
3	【文学ジャンルと物語論】詩とは? (1)	講義と①-1 グループディスカッション	プリントの下調べとDVD視聴メモ作成
4	【文学ジャンルと物語論】詩とは? (2) 論文作成における注意点: plagiarism	ディスカッションの結果を踏まえた講義	プリントの下調べとDVD視聴メモ作成
5	【文学ジャンルと物語論】物語: 一人称の語りと三人称の語り	講義と作品理解のための視点の説明	プリントの下調べとDVD視聴メモ作成
6	【パラブルと <i>Romeo and Juliet</i>] 寓話・譬え話の持つ意味とは (1)	講義と①-2 グループディスカッション	プリントの下調べと②-1 個人の課題の作成と提出
7	【パラブルと <i>Romeo and Juliet</i>] 寓話・譬え話の持つ意味とは (2)	②-1 個人の課題の発表と返却・講義	人的相関図とプロットの展開図の作成
8	【パラブルと <i>Tristan and Isolde</i>] 神話と文学 (1)	講義と①-3 グループディスカッション	プリントの下調べとDVD視聴メモ作成

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	【パラブルと <i>Tristan and Isolde</i> 】 神話と文学(2)	ディスカッションの結果を踏まえた講義	人的相関図とプロットの展開図の作成
10	【作品研究 <i>Jane Eyre</i> 】(1) ヴィクトリア朝と bildungsroman (教養小説)	講義と①-4 グループディスカッション	人的相関図の作成と②-2 個人の課題の作成と提出
11	【作品研究 <i>Jane Eyre</i> 】(2) 女性の自立と imprisonment (監禁)	②-2 個人の課題の発表と返却・講義	プリントの下調べと DVD 視聴メモの作成
12	【作品研究 <i>Vanity Fair</i> 】(1) ヴィクトリア朝と bildungsroman (教養小説)	講義と①-5 グループディスカッション	人的相関図とプロットの展開図の作成
13	【作品研究 <i>Vanity Fair</i> 】(2) 女性の自立と governess (女家庭教師)	ディスカッションの結果を踏まえた講義	プリントの下調べと②-3 個人の課題の作成と提出
14	【作品研究 <i>Sense & Sensibility</i> 】(1) ヴィクトリア朝と bildungsroman (教養小説)	②-3 個人の課題の発表と返却・講義	人的相関図とプロットの展開図の作成
15	【作品研究 <i>Sense & Sensibility</i> 】(2) 婚姻と the class system (階級制度)	講義と①-6 グループディスカッション	プリントの下調べと DVD 視聴メモの作成
16	【作品研究 <i>David Copperfield</i> 】(1) ヴィクトリア朝と bildungsroman (教養小説)	講義と①-7 グループディスカッション	人的相関図とプロットの展開図の作成
17	【作品研究 <i>David Copperfield</i> 】(2) 婚姻と child labour (児童労働)	ディスカッションの結果を踏まえた講義	プリントの下調べと②-4 個人の課題の作成と提出
18	【作品研究 <i>Wuthering Heights</i> 】(1) ヴィクトリア朝と bildungsroman (教養小説)	講義と①-8 グループディスカッション	人的相関図とプロットの展開図の作成
19	【作品研究 <i>Wuthering Heights</i> 】(2) 個人と社会	②-4 個人の課題の発表と返却・講義	プリントの下調べと DVD 視聴メモの作成
20	【作品研究 <i>Tess of the d'Urbervilles</i> 】(1) 婚姻と hypocrisy (偽善性)	講義と①-9 グループディスカッション	人的相関図とプロットの展開図の作成
21	【作品研究 <i>Tess of the d'Urbervilles</i> 】(2) 個人と社会	ディスカッションの結果を踏まえた講義	プリントの下調べと DVD 視聴メモの作成
22	【作品研究 <i>A Passage to India</i> 】(1) 帝国と 20 世紀の文学	講義と①-10 グループディスカッション	プリントの下調べと②-5 個人の課題の作成と提出
23	【作品研究 <i>A Passage to India</i> 】(2) 宗主国と植民地	②-5 個人の課題の発表と返却・講義	人的相関図とプロットの展開図の作成
24	【作品研究 <i>A Passage to India</i> 】(3) 異文化理解と文化的衝突	講義と DVD の視聴、プロットの説明	プリントの下調べと DVD 視聴メモの作成
25	【作品研究 <i>Great Gatsby</i> 】(1) アメリカ文学と 20 世紀	講義と①-11 グループディスカッション	人的相関図とプロットの展開図の作成
26	【作品研究 <i>Great Gatsby</i> 】(2) 現実と American dream (アメリカの夢)	ディスカッションの結果を踏まえた講義	次回の下調べと②-6 個人の課題の作成と提出
27	【作品研究 <i>The Age of Innocence</i> 】 モラルの対比と <i>Brave New World</i> (新世界)	②-6 個人の課題の発表と講義	人的相関図とプロットの展開図の作成
28	【作品研究 <i>The Remains of the Day</i> 】(1) 20 世紀と 21 世紀の英文学	講義と①-12 グループディスカッション	人的相関図とプロットの展開図の作成
29	【作品研究 <i>The Remains of the Day</i> 】(2) 個人と社会	ディスカッションの結果を踏まえた講義	③最終課題の作成と提出
30	21 世紀の英文学の行方と文学研究の意義と個人課題の返却	講義と個人課題の返却と講評	ノートおよびグループディスカッションの整理

テキスト	テキストはない。Sparknotes.com 等の plot summary を用いたプリントを配布。講義に用いる DVD の視聴用リストの配布。
参考書	David Lodge. <i>The Art of Fiction</i> (Penguin Books). 都甲幸治『21 世紀の世界文学 30 冊を読む』(新潮社), 阿部公彦『小説的思考のススメ』(東京大学出版会)
その他 特記事項	授業初回時に配布する DVD のリストに従い、準備学修・復習として指示された DVD を図書館等でメモを取りながら各自で見てください。

科目名	LNG200: 言語学概論					担当教員	大澤 恵里	
開講期	春	開講時限	火金2限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-②	
キーワード	英語史、音声学、音韻論、形態論、生成文法、社会言語学、応用言語学							
授業の概要	本講を通じて学生は普段何気なく使っている「ことば」を客観的に観察・分析することで、その本質を考察する。具体的には言語学の中心的なテーマである「言語構造」に関する内容と、言語とその他の分野との接点を、指定テキストと担当者の準備した資料(様々な練習問題を含む)をもとに講義形式で学んでいく。また理解促進のため毎授業時に既習内容に関するレビューを行う。							
達成目標	本講の目標は学生が対象言語となっている英語の音声・音韻の体系、語形成、文構造、文や発話の意味といった基本的な言語構造、および歴史やことばのバリエーション、言語と文化の接点や言語習得といった関連分野に関する基本的概念・理論に触れ、その理解を深めることを目標とする。							
到達目標	学生は言語学という学問分野の中で音、語、句・文、談話、そして意味のそれぞれがどのような体系/構造を有しているのかを理解し、それを自らの言語生活(母語と外国語)に照らし合わせ、考察することができるようになる。同様にその他の関連テーマについても内容の理解だけにとどまらず、そこから自らがどのように日々言語を使用し、また学んでいるのかについて様々な発見や気づきを得ることができる。							
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 理解度テスト 1 (35%) 理解度テスト 2 (35%) Book Report (20%) 授業参加度/提出物 (10%) 							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 理解度テスト 1: 学期前半部分の内容についての理解と定着度を確認する。 理解度テスト 2: 学期後半部分の内容についての理解と定着度を確認する。 Book Report: Booklistにある指定図書の中から一冊を読み、内容の要約(章や節ごとに内容をまとめる)と自分の見解(何を学べたか、どのような発見があったか、どんな課題が見つかったかなど)を含めたブックレポートを作成する。 授業参加度/提出物: 授業内での発言や質問(レビュー時)、また提出物の成果 							
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	本講を概観する	講義・ディスカッション	テキスト全体に目を通す。
2	言語とは —言語の定義と特性	講義・ディスカッション	テキスト第1-2章 レジュメの予習・復習
3	英語の歴史 ①古英語、中英語	講義・ディスカッション	テキスト第3-7章 レジュメの予習・復習
4	英語の歴史 ②近代英語、世界の英語	講義・ディスカッション	テキスト第3-7章 レジュメの予習・復習
5	音声学・音韻論 —母音の分類	講義・ディスカッション	テキスト第8-9章 レジュメの予習・復習
6	音声学・音韻論 —子音の分類	講義・ディスカッション	テキスト第8-9章 レジュメの予習・復習
7	音声学・音韻論 —音素について	講義・ディスカッション	テキスト第8-9章 レジュメの予習・復習
8	音声学・音韻論 —音韻規則について	講義・ディスカッション	テキスト第8-9章 レジュメの予習・復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	形態論 ー形態素の種類	講義・ディスカッション	テキスト第10章 レジュメの予習・復習
10	形態論 ー語構造	講義・ディスカッション	テキスト第10章 レジュメの予習・復習
11	形態論 ー語形成	講義・ディスカッション	テキスト第10章 レジュメの予習・復習
12	統語論 ー文法研究の変遷	講義・ディスカッション	テキスト第11-12章 レジュメの予習・復習
13	統語論 ー生成文法	講義・ディスカッション	テキスト第11-12章 レジュメの予習・復習
14	統語論 ー生成文法、句構造規則	講義・ディスカッション	テキスト第11-12章 レジュメの予習・復習
15	前半の総復習 理解度テスト1	講義・試験	第1回目から第14回目までの内容を復習する。
16	理解度テスト1の返却、及び解説 前半のまとめ	試験返却、質疑応答 講義	テストの見直し これまでの復習
17	統語論 ー句構造規則	講義・ディスカッション	テキスト第11-12章 レジュメの予習・復習
18	意味論 ー語の意味	講義・ディスカッション	テキスト第13-16章 レジュメの予習・復習
19	意味論 ー文の意味	講義・ディスカッション	テキスト第13-16章 レジュメの予習・復習
20	語用論 ー語用論とは、意味論との違い	講義・ディスカッション	テキスト第17-20章 レジュメの予習・復習
21	語用論 ー談話構造	講義・ディスカッション	テキスト第17-20章 レジュメの予習・復習
22	語用論 ー発話行為、会話の含意	講義・ディスカッション	テキスト第17-20章 レジュメの予習・復習
23	ことばと文化・コミュニケーション論	講義・ディスカッション	テキスト第21-22章 レジュメの予習・復習
24	社会言語学 ー言語の多様性(地域)	講義・ディスカッション	テキスト第23-24章 レジュメの予習・復習
25	社会言語学 ー言語の多様性(社会)	講義・ディスカッション	テキスト第23-24章 レジュメの予習・復習
26	応用言語学 ー母語獲得	講義・ディスカッション	テキスト第25章 レジュメの予習・復習
27	応用言語学 ー第二言語習得	講義・ディスカッション	テキスト第25章 レジュメの予習・復習
28	応用言語学 ー外国語教授法	講義・ディスカッション	テキスト第25章 レジュメの予習・復習
29	後半の総復習 理解度テスト2	講義・試験	第17回目から第28回目までの内容を復習する。
30	理解度テスト2の返却、及び解説 学期のまとめ	試験返却、質疑応答 講義	テストの見直し 学期の総復習

テキスト	長谷川瑞穂(編著)『はじめての英語学』(研究社)
参考書	黒田龍之介『はじめての言語学』(講談社新書) 井上和子・原田かづ子・阿部泰明『生成言語学入門』(大修館書店)
その他 特記事項	この科目は言語系のゼミ受講への基礎知識を与えるものである。

科目名	LNG200: 言語学概論					担当教員	神谷 雅仁	
開講期	秋	開講時限	月木3限	研究室	4215	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-②	
キーワード	言語とは、英語史、音素、語形成、生成文法、文/発話の意味、言語のバリエーション							
授業の概要	本講を通じて学生は普段何気なく使っている「ことば」を客観的に観察・分析することで、その本質を考察する。具体的には言語学の中心的なテーマである「言語構造」に関する内容と、言語とその他の分野との接点を、指定テキストと担当者の準備した資料(様々な練習問題を含む)をもとに講義形式で学んでいく。また理解促進のため毎授業時に既習内容に関するレビューを行う。							
達成目標	本講の目標は学生が対象言語となっている英語の音声・音韻の体系、語形成、文構造、文や発話の意味といった基本的な言語構造、および歴史やことばのバリエーション、言語と文化の接点や言語習得といった関連分野に関する基本的概念・理論に触れ、その理解を深めることを目標とする。							
到達目標	学生は言語学という学問分野の中で音、語、句・文、談話、そして意味のそれぞれがどのような体系/構造を有しているのかを理解し、それを自らの言語生活(母語と外国語)に照らし合わせ、考察することができるようになる。同様にその他の関連テーマについても内容の理解だけにとどまらず、そこから自らがどのように日々言語を使用し、また学んでいるのかについて様々な発見や気づきを得ることができる。							
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 理解度テスト1 (35%) 理解度テスト2 (35%) Book Report (20%) 授業参加度/提出物 (10%) 							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 理解度テスト1: 学期前半部分の内容についての理解と定着度を確認する。 理解度テスト2: 学期後半部分の内容についての理解と定着度を確認する。 Book Report: Booklistにある指定図書の中から一冊を読み、内容の要約(記述内容を理解した上で、章や節ごとにしっかりとまとめられているかどうか)と自分の見解(本から学んだことを踏まえ、どのような新たな発見があったか、どのような疑問が浮かんできたか、どのような課題が見つかったかなどについて論述できているかどうか)を含めたブックレポートを作成する。 授業参加度/提出物: 授業内(特にReview時)での発言や質問の回数と内容、また提出物の成果 							
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	Course overview 本講を概観する	講義、ディスカッション	テキスト全体に目を通す
2	What is Language? 人間にとって言語とは何か?	講義、ビデオ視聴、ディスカッション	テキスト(ch. 1-2)、レジユメの予習・復習
3	What is Language? 言語の定義	講義、ビデオ視聴、ディスカッション	Reaction paper作成、レジユメの予習・復習
4	What is Language? 言語の特性	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 1-2)、レジユメの予習・復習
5	What is Linguistics? 言語学という分野	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 1-2)、レジユメの予習・復習
6	History of English 英語の歴史: 古英語	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 3-5)、レジユメの予習・復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
7	History of English 英語の歴史：中英語	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 3-5)、レジユメの予習・復習
8	History of English 英語の歴史：近代英語	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 3-5)、レジユメの予習・復習
9	Phonetics 音声学：言語音	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 8-9)、レジユメの予習・復習
10	Phonology 音韻論：音素	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 8-9)、レジユメの予習・復習
11	Phonology 音韻論：超分節音素	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 8-9)、レジユメの予習・復習
12	Morphology 形態論：形態素とは？	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 10)、レジユメの予習・復習
13	Morphology 形態論：語形成	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 10)、レジユメの予習・復習
14	Syntax 1 統語論 1 伝統文法、アメリカ構造主義言語学	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 11-12)、レジユメの予習・復習
15	Syntax 1 統語論 アメリカ構造主義言語学 Review of the first half 前半のまとめ	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 11-12)、レジユメの予習・復習
16	Review of the first half 前半のまとめ 理解度テスト 1	講義、質疑応答 試験実施	テキスト(ch. 11-12)、レジユメの復習、テスト準備
17	Test review 試験の返却、および解説 Syntax 2 統語論 2 生成変形文法：文法観	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 11-12)、レジユメの予習・復習
18	Syntax 2 統語論 2 生成変形文法：句構造規則	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 11-12)、レジユメの予習・復習
19	Semantics 意味論：語の意味	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 13-16)、レジユメの予習・復習
20	Semantics 意味論：句・文の意味	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 13-16)、レジユメの予習・復習
21	Pragmatics 語用論 語用論とは：基本概念	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 17-20)、レジユメの予習・復習
22	Pragmatics 語用論 発話行為、会話の含意	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 21-22)、レジユメの予習・復習
23	Communication and culture 文化と文脈	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 21-22)、レジユメの予習・復習
24	Communication and culture 文化とコミュニケーション	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 21-22)、レジユメの予習・復習
25	Sociolinguistics 社会言語学 言語のバリエーション	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 6 & 23-24)、レジユメの予習・復習
26	Sociolinguistics 社会言語学 言語政策	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 6 & 23-24)、レジユメの予習・復習
27	Second Language Acquisition 第二言語習得 外国語教授法	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 25)、レジユメの予習・復習
28	Second Language Acquisition 第二言語習得 様々な第二言語習得理論	講義、ディスカッション	テキスト(ch. 25)、レジユメの予習・復習
29	Review of the second half 後半のまとめ 理解度テスト 2	講義、質疑応答 試験実施	テキスト(ch. 11-25)、レジユメの復習、テスト準備
30	Test review 試験の返却、および解説 Course review 全体のまとめ	講義、質疑応答	テスト問題の見直し

テキスト	長谷川瑞穂(編著)『はじめての英語学』(研究社)
参考書	黒田龍之介『はじめての言語学』(講談社現代新書) 大津由紀雄『探検！ことばの世界』(ひつじ書房)

科目名	EDU205: 児童英語教育概説					担当教員	狩野 晶子	
開講期	春	開講時限	月木5限	研究室	4203	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4,5	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。					4-②, 5-②	
キーワード	児童英語教育、小学校外国語(英語)教育、第二言語習得、実践							
授業の概要	児童英語教育に関心のある者に向け、児童英語とは何か、その特性と代表的な教授内容を概観する。児童英語に関連して児童心理学、言語習得論、教育学、英語教授法など多岐にわたる専門分野の内容を扱う。学生は講義とグループワーク活動、指導実践、発表を通して児童英語教育についての基礎的な知識を学び、実践活動の疑似的体験を得る。							
達成目標	児童英語教育の基本的知識を学び、児童英語の英語教育における位置づけ、外国語習得および第二言語習得理論との関連から、児童期にはどのような教授法がふさわしいかを知る。児童英語の指導者としての疑似的な指導を体験し、そのために練習を積むことで、児童への効果的な指導が行える基礎力を身につける。							
到達目標	児童英語の教授法の基礎知識と応用アクティビティを実践する体験を通して、指導の際の基本的な観点を知る。さらに学生相互の実践演習を通じて、効果的な実践方を体験的に学び、レッスンプランの組み立て、指導の準備や練習の過程で児童英語教育に必要な表現、語彙、効果的な発音方法を知り実際の指導に生かすことができるようになる。							
評価方法	①授業時に課すコメントシート(10%)、②グループによる小課題・実践発表(30%)、③モデルレッスンプラン発表(30%)、④期末課題(30%)。							
評価基準	①授業の内容を踏まえ、自分の学びを客観視して言語化しているか。②課題のポイントを的確に捉え、実践発表の事前準備、練習が十分になされ、グループで協力して取り組んでいるか。③児童の特性を踏まえた内容で、ねらい・時間配分・レベルが適切で実現可能な内容であるか。発表は明確で段取りに配慮があるか。④学んだ内容を踏まえて省察した内容か。適切な活動案を提示し、その背景と理由を明示しているか。							
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	児童英語教育が目指すものとは 従来の英語教育を概観する	講義、グループワーク、 コメントシート	復習: ポイントを整理理解 予習: テキスト pp.2~21
2	外国語の指導法①: 学習指導要領、小中連携、 児童や学校の多様性への対応	講義、グループワーク、 コメントシート	復習: ポイントを整理理解 予習: テキスト pp.22~24
3	外国語の指導法②: 言語習得とインプット、 コミュニケーションの目的や場面	講義、グループワーク、 コメントシート	復習: ポイントを整理理解 予習: テキスト pp.25~37
4	外国語の指導法③: 音声から文字へ、児童文学 (絵本・歌・詩)、絵本模擬実践	講義、グループワーク、 模擬実践	予習: テキスト pp.96~103 絵本模擬実践の準備と練習
5	理論と実践: storybook reading ①	学生指導実践発表、コ メントシート	テキスト内容を復習整理 絵本模擬実践の準備と練習
6	理論と実践: storybook reading ②	学生指導実践発表、コ メントシート	テキスト内容を復習整理 絵本模擬実践の準備と練習
7	理論と実践: storybook reading ③	学生指導実践発表、コ メントシート	絵本模擬実践の準備と練習 予習: テキスト pp.38~66
8	外国語の指導法④: Classroom English, small talk、題材・教材選定、ICT活用	講義、グループワーク、 コメントシート	復習: ポイントを整理理解 予習: テキスト pp.67~91

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	外国語に関する専門的事項①: 英語の発音と綴り、文法と文構造、語彙	講義、グループワーク、コメントシート	復習: ポイントを整理理解 予習: テキスト pp.92~108
10	外国語に関する専門的事項②: 第二言語習得、異文化理解	講義、グループワーク、コメントシート	復習: ポイントを整理理解 予習: テキスト pp.109~128
11	外国語に関する専門的事項③: 英語コミュニケーション(4技能と領域統合型)	講義、グループワーク、コメントシート	復習: ポイントを整理理解 まとめレポート作成準備
12	まとめレポート(ピアフィードバックセッション)、アクティビティ模擬実践	グループワーク、講義、模擬実践	テキストの内容を復習整理 模擬実践の準備と練習
13	理論と実践: アクティビティ①	指導実践、学生発表、コメントシート	テキストの内容を復習整理 模擬実践の準備と練習
14	理論と実践: アクティビティ②	指導実践、学生発表、コメントシート	テキストの内容を復習整理 模擬実践の準備と練習
15	理論と実践: アクティビティ③	指導実践、学生発表、コメントシート	テキストの内容を復習整理 模擬実践の準備と練習
16	理論と実践: アクティビティ④	指導実践、学生発表、コメントシート	テキストの内容を復習整理 模擬実践の準備と練習
17	外国語に関する専門的事項④: 英語コミュニケーション総括	講義、グループワーク、コメントシート	復習: ポイントを整理理解 予習: テキスト pp.133~142
18	外国語活動の指導法①: 中学年と高学年、発達心理学の基礎と認知・情緒発達	講義、グループワーク、模擬実践	復習: ポイントを整理理解 予習: テキスト pp.142~153
19	外国語活動の指導法②: 指導者の問題、HRTの役割とティームティーチング	講義、グループワーク、模擬実践	復習: ポイントを整理理解 予習: テキスト pp.154~173
20	外国語活動の指導法③: 中学年での外国語活動に適した活動や評価	講義、グループワーク、模擬実践	復習: ポイントを整理理解 予習: テキスト pp.174~193
21	外国語活動の指導法④: 指導法の概要まとめ、実際の指導に取り入れるには	講義、グループワーク、模擬実践	復習: ポイントを整理理解 予習: テキスト pp.174~153
22	発表: モデルレッシンプラン(1)・相互評価・講評	学生発表、相互評価、講評	復習: ポイントを整理理解 発表の準備と練習
23	発表: モデルレッシンプラン(2)・相互評価・講評	学生発表、相互評価、講評	復習: ポイントを整理理解 発表の準備と練習
24	発表: モデルレッシンプラン(3)・相互評価・講評	学生発表、相互評価、講評	復習: ポイントを整理理解 発表の準備と練習
25	相互評価まとめ [フィードバックセッション1]	相互評価、講評、コメントシート	相互フィードバックの準備 既習内容と関連付け整理
26	発表: モデルレッシンプラン(4)・相互評価・講評	学生発表、相互評価、講評	復習: ポイントを整理理解 発表の準備と練習
27	発表: モデルレッシンプラン(5)・相互評価・講評	学生発表、相互評価、講評	復習: ポイントを整理理解 発表の準備と練習
28	発表: モデルレッシンプラン(6)・相互評価・講評	学生発表、相互評価、講評	復習: ポイントを整理理解 発表の準備と練習
29	相互評価まとめ [フィードバックセッション2]	相互評価、講評、コメントシート	相互フィードバックの準備 プリントの内容を復習整理
30	総評・振り返り	講義、講評、グループワーク	これまでの全体の復習

テキスト	小川隆夫東仁美(著)、吉田研作(監修)『小学校英語 はじめる教科書 外国語科・外国語活動指導者養成のために』(mpi 松香フォニックス)
参考書	上智大学 CLT プロジェクト・編『コミュニケーション型英語教育を考える: 日本の教育現場に役立つ理論と実践』(アルク)
その他 特記事項	この科目は小学校での英語指導を行うサービスマスターリング活動への参加と連動した「児童英語教育演習 A/B」の前提科目である。

科目名	JPN210: 日本語教育概論					担当教員	宮崎 幸江	
開講期	秋	開講時限	木1・2限	研究室	4217	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4,5	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。					4-②, 5-①	
キーワード	外国語としての日本語教授法、年少者日本語教育、バイリンガルの言語発達							
授業の概要	バイリンガル環境で育つ子どもにどうやって日本語を教えるかを学ぶ。まず、バイリンガルの言語の発達や発達に影響を及ぼす要因について基礎となる事柄を学んだあと、カレッジフレンド等での支援方法を考える。さらに講義だけではなく、北米の大学で日本語を学ぶ学生と学期を通して一対一でメール交換を行ない、成人と子どもの言語習得の違いを学ぶとともに、異文化間コミュニケーションを体験する。							
達成目標	本科目の目標は、グローバル化に伴い多様化する日本語学習者(例:留学生や研修生、定住外国人とその家族)のニーズや第2言語の発達の違いに関する理論を理解し、カレッジフレンド活動を行う上で必要な知識を身につけることである。							
到達目標	学期中、カレッジフレンド等で外国人児童生徒への日本語や教科学習支援を行う際に、授業で学んだ知識を実践に生かし、現場での課題や疑問を授業の中で共有し解決策を見いだせるようになることである。言語や文化の異なる人々との共生力を理論と実践を繰り返し身に付ける。							
評価方法	授業への積極参加 10%、プレゼンテーション 30%、期末レポート(小論文 40%+カレッジフレンド振り返り 20%) 60%							
評価基準	授業への積極参加: 授業での発言やグループワークへの貢献を評価する。 プレゼンテーション: カレッジフレンドの実践を分析し言語化できるかを評価する。 期末レポート: 理論を用いて、支援した子どもの発達を分析できるかを評価する。							
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	第1章 バイリンガルとは 母語と第2言語の違いについて	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書第1章前半を読む、ノートまとめる
2	第1章 バイリンガルとは モノリンガルとの違い	講義、ディスカッション、質疑応答	第1章後半を読んで、ノートにまとめる
3	第1章 バイリンガルとは バイリンガルの分類	講義、ディスカッション、質疑応答	第1章を読んでノートにまとめる
4	グローバル化と人の移動: 複数の言語文化に接して成長する子どもたち	講義、発表、ディスカッション	第1章を読んで、ノートにまとめる
5	秦野市の多文化化と外国人児童生徒の教育	講義、発表、ディスカッション	第2章前半を読んでノートにまとめる
6	第1章 子どもの母語の発達と年齢 保護者の役割	講義、ディスカッション、質疑応答	第2章前半を読んでノートにまとめる
7	第2章 子どもの母語の発達と年齢 年齢と母語の形成	講義、発表、ディスカッション	第2章前半を読んでノートにまとめる
8	第2章 子どもの母語の発達と年齢 臨界期とは	講義、発表、ディスカッション	第2章後半を読んでノートにまとめる
9	第2章 子どもの母語の発達と年齢 母語と継承語	講義、ディスカッション、質疑応答	第3章前半を読んでノートにまとめる

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	第3章 バイリンガル教育の理論 2言語共有説	講義、ディスカッション、質疑応答	第3章前半を読んでノートにまとめる
11	第3章 バイリンガル教育の理論 BICS・CALP/ALP	講義、発表、ディスカッション	第3章後半を読んでノートにまとめる
12	第3章 バイリンガル教育の理論 ランドレー・アラードの理論	講義、ディスカッション、質疑応答	第3章後半を読んでノートにまとめる
13	第3章 バイリンガル教育の理論 カウンターバランス節	講義、発表、ディスカッション	第4章前半を読んでノートにまとめる
14	第4章 家庭で育てるバイリンガル 母語の役割・言語の使い分け	講義、発表、ディスカッション	第4章前半を読んでノートにまとめる
15	ことばの力のアセスメント DLA アセスメントの理論	講義、ディスカッション	第4章後半を読んでノートにまとめる
16	第4章 家庭で育てるバイリンガル 幼児期のダブルリミテッド現象	講義、発表、ディスカッション	第6章後半を読んでノートにまとめる
17	ことばの力のアセスメント DLA DLA「話す」とDLA「読む」の構造	講義、ディスカッション	第7章前半を読んでノートにまとめる
18	第7章 マイノリティ言語児童生徒とバイリンガル教育：米国：ESLからELLへ	講義、発表、ディスカッション	第7章前半を読んでノートにまとめる
19	第7章 マイノリティ言語児童生徒とバイリンガル教育：米国のEnglish Only政策	講義、ディスカッション、質疑応答	第7章前半を読んでノートにまとめる
20	第7章 マイノリティ言語児童生徒とバイリンガル教育：カナダの移民教育	講義、発表、ディスカッション	第7章後半を読んでノートにまとめる
21	第7章 マイノリティ言語児童生徒とバイリンガル教育：カナダ継承語から国際語へ	講義、ディスカッション、質疑応答	第7章後半を読んでノートにまとめる
22	第7章 マイノリティ言語児童生徒とバイリンガル教育：日本の教育政策	講義、ディスカッション、質疑応答	第7章後半を読んでノートにまとめる、プレゼン準備
23	プレゼンテーション	質疑応答、ディスカッション	第10章前半を読んでノートにまとめる
24	第10章 バイリンガルと文化の習得 文化習得と年齢	講義、ディスカッション、質疑応答	プレゼン準備
25	プレゼンテーション	質疑応答、ディスカッション	第10章後半を読んでノートにまとめる
26	第10章 バイリンガルと文化の習得 アイデンティティと言語	講義、ディスカッション、質疑応答	プレゼン準備
27	プレゼンテーション	質疑応答、ディスカッション	第10章後半を読んでノートにまとめる
28	第10章 バイリンガルと文化の習得 新統合型アイデンティティ	講義、ディスカッション、質疑応答	プレゼン準備
29	プレゼンテーション	質疑応答、ディスカッション	期末課題作成
30	まとめ	講義、ディスカッション、質疑応答	期末課題作成

テキスト	中島和子『完全改訂版 バイリンガル教育の方法 12歳までに親と教師ができること』(アルク)
参考書	宮崎幸江(編)『多文化の子どもと教育 ことばと文化のはざまに生きる』(上智大学出版)
その他特記事項	履修生は、毎週月曜日の1~2限に小中学校でカレッジフレンドに参加する。

科目名	GMN101: ドイツ語 I				担当教員	工藤 花野		
開講期	春/秋	開講時限	月木3限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び 学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-①	
キーワード	基礎ドイツ語、初級ドイツ語文法							
授業の 概要	初心者にとって「読む・書く・聞く・話す」力の基礎となる文法を中心に、丁寧に時間をかけて進めていきます。対話文やドリルを用いた「読む・書く」練習や、ペアワーク等による会話形式の「聞く・話す」練習を通じて、総合的な基礎力を身につけます。							
達成目標	「読む・書く・聞く・話す」の総合的な練習により、ドイツ語の発音、基礎的文法力、基礎的表現力を合理的に身につける。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語の読み方と発音がきちんとできる。 ・文の構造と動詞の活用の仕組み・名詞の格の働きを理解する。 ・簡単な会話や文章を理解し、作文できる。 ・日常で用いる基本的な語彙を身につける。 							
評価方法	授業時の積極参加 (10%)、毎回の課題提出 (10%)、中間・期末試験 (80%)							
評価基準	授業参加 [個人やペアでの発表により、表現・発音・聞き取る力を確認する] 課題提出 [授業毎の短い自習課題の提出により、授業内容や文法事項を確認する] 中間・期末試験 [筆記試験により、文法・読み・書きの力を確認する]							
準備学修 の時間	本科目の一回 (90分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 45分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	導入、授業概要の説明 ドイツ語のアルファベットと発音・挨拶	演習 (発音)	テキスト S. 7-9 までの整理 次回提出用課題準備
2	[Lektion1] 出会いと自己紹介 動詞の現在人称変化	演習 (発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 10, 13 の整理 次回提出用課題準備
3	[Lektion1] 出会いと自己紹介 sein の現在人称変化	演習 (発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 11, 13 の整理 次回提出用課題準備
4	[Lektion1] 出会いと自己紹介 会話と作文	演習 (発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 12, 13 の整理 次回提出用課題準備
5	[Lektion2] 家族について尋ねる 名詞の姓と定冠詞・不定冠詞の格変化	演習 (発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 14, 17 の整理 次回提出用課題準備
6	[Lektion2] 家族について尋ねる haben の現在人称変化	演習 (発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 15, 17 の整理 次回提出用課題準備
7	[Lektion2] 家族について尋ねる 会話と作文	演習 (発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 17, 18 の整理 次回提出用課題準備
8	[Lektion3] 明日の予定を尋ねる 不規則な現在人称変化	演習 (発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 18, 21 の整理 次回提出用課題準備
9	[Lektion3] 明日の予定を尋ねる 命令形	演習 (発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 19, 21 の整理 次回提出用課題準備
10	[Lektion3] 明日の予定を尋ねる 会話と作文	演習 (発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 20, 21 の整理 次回提出用課題準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
11	[Lektion4] 買い物に行く(1) 定冠詞類と不定冠詞類	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 22, 25 の整理 次回提出用課題準備
12	[Lektion4] 買い物に行く(1) 所有冠詞	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 23, 25 の整理 次回提出用課題準備
13	[Lektion4] 買い物に行く(1) 会話と作文	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 24, 25 の整理 次回提出用課題準備
14	日常単語及び数字表現① 会話表現①	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 40, 42, 76, 78 の整理
15	Lektion1-4 の総括・質疑応答(20分) 筆記試験(70分)	質疑応答 試験	テキスト S. 7-25 の整理 次回提出用課題準備
16	Lektion1-4 の総括・試験解答 [Lektion5] 買い物に行く(2) 名詞の複数形	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 26, 29 の整理 次回提出用課題準備
17	[Lektion5] 買い物に行く(2) 人称代名詞の格変化と語順	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 27, 29 の整理 次回提出用課題準備
18	[Lektion5] 買い物に行く(2) 会話と作文	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 28, 29 の整理 次回提出用課題準備
19	[Lektion6] 週末の予定を尋ねる 2格・3格・4格支配の前置詞	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 30, 33 の整理 次回提出用課題準備
20	[Lektion6] 週末の予定を尋ねる 3・4格支配の前置詞・定冠詞との融合形	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 31, 33 の整理 次回提出用課題準備
21	[Lektion6] 週末の予定を尋ねる 会話と作文	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 32, 33 の整理 次回提出用課題準備
22	[Lektion7] 趣味について尋ねる 形容詞の格変化(無冠詞型)	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 34, 37 の整理 次回提出用課題準備
23	[Lektion7] 趣味について尋ねる 形容詞の格変化(定冠詞・不定冠詞)	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 35, 37 の整理 次回提出用課題準備
24	[Lektion7] 趣味について尋ねる 会話と作文	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 36, 37 の整理 次回提出用課題準備
25	[Lektion8] 昼食を食べに行く 話法の助動詞と現在人称変化	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 38, 41 の整理 次回提出用課題準備
26	[Lektion8] 昼食を食べに行く 話法の助動詞の構文(語順)	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 39, 41 の整理 次回提出用課題準備
27	[Lektion8] 昼食を食べに行く 会話と作文	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 40, 41 の整理 次回提出用課題準備
28	日常単語及び数字表現②	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 41-43 の整理
29	Lektion5-8 の総括・質疑応答(20分) 筆記試験(70分)	質疑応答 試験	テキスト S. 26-47 の整理 次回提出用課題準備
30	Lektion5-8 の総括・試験解答 会話表現②	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 78-80 の整理

テキスト	『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール [三訂版]』(白水社)
履修条件、 前提科目	初学者、初級者向けであり、この言語を母語とする学生、および日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則、不可とする。
その他 特記事項	できるだけ余裕をもって進行に努めるが、欠席が続くと習得度が下がる上、ペアワークやグループワークが多いので毎回の出席が望ましい。また、辞書の持参を推奨する。

科目名	GMN102: ドイツ語Ⅱ				担当教員	工藤 花野		
開講期	春	開講時限	月木4限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-①	
キーワード	基礎ドイツ語、基礎ドイツ語文法の完成							
授業の概要	ドイツ語Ⅰに引き続き、「読む・書く・聞く・話す」力の基礎となる文法を中心に、丁寧に時間をかけて進めていきます。対話文やドリルを用いた「読む・書く」練習や、ペアワーク等による会話形式の「聞く・話す」練習を通じて、バランスのとれた基礎力を鍛えながら、より複雑な表現方法を習得します。							
達成目標	ドイツ語Ⅰで習得した語彙力・文法力を再確認しながら、さらに学習を進めてドイツ語の「書く・読む・聞く・話す」の総合的な練習により、ドイツ語の発音、基礎的文法力、基礎的表現力を身につける。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語の読み方と発音がきちんとできる。 ・文の構造と動詞の活用の仕組み・名詞の格の働きを理解する。 ・複雑な文章を理解し、作文することができる。 ・新出語彙を身につける。 							
評価方法	授業時の積極参加(10%)、毎回の課題提出(10%)、中間・期末試験(80%)							
評価基準	授業参加 [個人やペアでの発表により、表現・発音・聞き取る力を確認する] 課題提出 [授業毎の短い自習課題の提出により、授業内容や文法事項を確認する] 中間・期末試験 [筆記試験により、文法・読み・書きの力を確認する]							
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均45分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	ドイツ語Ⅰを振り返る [Lektion1-4] 動詞・名詞(性・格・冠詞・冠詞類)	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 10-25 の整理 次回提出用課題準備
2	ドイツ語Ⅰを振り返る [Lektion5-6] 複数形・人称代名詞・前置詞の格支配	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 26-33 の整理 次回提出用課題準備
3	ドイツ語Ⅰを振り返る [Lektion7-8] 形容詞の格変化・話法の助動詞と未来形	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 34-47 の整理 次回提出用課題準備
4	[Lektion9] 駅の窓口で尋ねる 分離動詞・非分離動詞と分離動詞の構文	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S.48, 51 の整理 次回提出用課題準備
5	[Lektion9] 駅の窓口で尋ねる 従属接続詞と複文	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 49, 51 の整理 次回提出用課題準備
6	[Lektion9] 駅の窓口で尋ねる 会話と作文	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 50, 51 の整理 次回提出用課題準備
7	[Lektion10] 休暇の計画を尋ねる zu 不定詞	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 52, 55 の整理 次回提出用課題準備
8	[Lektion10] 休暇の計画を尋ねる 再帰代名詞・再帰動詞	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 53, 55 の整理 次回提出用課題準備
9	[Lektion10] 休暇の計画を尋ねる 会話と作文	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 54, 55 の整理 次回提出用課題準備
10	[Lektion9-10] 会話表現①計画をたずねる	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 80 の整理 次回提出用課題準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
11	[Lektion11] 旅の体験を語る① 動詞・分離動詞の3基本形	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 56, 59 の整理 次回提出用課題準備
12	[Lektion11] 旅の体験を語る① 動詞・分離動詞の過去人称変化	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 57, 59 の整理 次回提出用課題準備
13	[Lektion11] 旅の体験を語る① 会話と作文	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 58, 59 の整理 次回提出用課題準備
14	[Lektion12] 旅の体験を語る② 現在完了形	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 60, 63 の整理 次回提出用課題準備
15	[Lektion12] 旅の体験を語る② 非人称表現	質疑応答 試験	テキスト S. 61, 63 の整理 次回提出用課題準備
16	[Lektion12] 旅の体験を語る② 会話と作文	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 62, 63 の整理 次回提出用課題準備
17	Lektion9-12 の総括・質疑応答(20分) 筆記試験(70分)	質疑応答 試験	テキスト S. 48-63 の整理 次回提出用課題準備
18	Lektion9-12 の総括・試験解答 [Lektion11-12] 会話表現②体験を語る	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 81 の整理 次回提出用課題準備
19	[Lektion13] 意見と交換する① 受動態	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 64, 67 の整理 次回提出用課題準備
20	[Lektion13] 意見を交換する① 比較表現	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 65, 67 の整理 次回提出用課題準備
21	[Lektion13] 意見を交換する① 会話と作文	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 66, 67 の整理 次回提出用課題準備
22	[Lektion14] 意見を交換する② 関係代名詞・関係文	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 68, 71 の整理 次回提出用課題準備
23	[Lektion14] 意見を交換する② 不定関係代名詞・関係副詞	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 69, 71 の整理 次回提出用課題準備
24	[Lektion14] 意見を交換する② 会話と作文	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 70, 71 の整理 次回提出用課題準備
25	[Lektion13-14] 会話表現③意見を交換する	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 81 の整理 次回提出用課題準備
26	[Lektion15] 別れと再会の約束 接続法Ⅰ式	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 72, 75 の整理 次回提出用課題準備
27	[Lektion15] 別れと再会の約束 接続法Ⅱ式	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 73, 75 の整理 次回提出用課題準備
28	[Lektion15] 別れと再会の約束 会話と作文	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 74, 75 の整理 試験範囲(S. 64-75)の整理
29	Lektion13-15 の総括・質疑応答(20分) 筆記試験(70分)	質疑応答 試験	テキスト S. 64-75 の整理 次回提出用課題準備
30	Lektion13-15 の総括・試験解答 残りの文法事項(文法補遺・語の配置)	演習(発音、ペアワーク、作文ほか)	テキスト S. 82-85 の整理

テキスト	『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール [改訂版]』(白水社)
履修条件、 前提科目	ドイツ語Ⅰを履修済みであるか、またはそれと同等のレベルであること。ただし、この言語を母語とする学生、および日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則、不可とする。P.58の(11)参照。
その他 特記事項	できるだけ余裕をもって進行に努めるが、欠席が続くと習得度が下がる上、ペアワークやグループワークが多いので毎回の出席が望ましい。また、辞書の持参を推奨する。

科目名	FRN101: フランス語 I				担当教員	塩谷 優衣		
開講期	春/秋	開講時限	月木3限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-①	
キーワード	フランス語入門							
授業の概要	フランス語入門者を対象とする。フランス語の基本要素と基礎的な文法をテキストに沿って学び、学んだことを踏まえて、読む・聞く・話す・書く練習を行う。練習を繰り返し、学んだことを小テストで確認することにより、これら4つの能力を、基礎的なレベルでバランスよく習得することを目指す。							
達成目標	本科目は、学生がフランス語で読む・聞く・話す・書く力を、基礎的なレベルで習得するために、フランス語の基本要素と基礎的な文法を理解し、練習を通してそれらを運用する力を身につけることを目的とする。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なフランス語の文章を正しい発音で読み、理解することができる。 ・簡単なフランス語の文章または会話を聞き取り、理解することができる。 ・自分や周囲の人・物について、簡単なフランス語で説明し、質問することができる。 ・簡単なフランス語を用いて、短い文章を作文することができる。 							
評価方法	授業時の積極参加 20%、第一回授業内試験 30%、第二回授業内試験 30%、小テスト 20%							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の積極参加：発音・会話を含む練習問題に参加しているか ・授業内試験、小テスト：授業に基づいた内容を読み、聞き取り、書くことができるか 							
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均45分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	授業概要の説明 母音、半母音、鼻母音、子音	講義・練習問題	配布プリント、練習問題の復習
2	母音字、子音字、綴り字記号、アルファベ	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 0・1 の該当箇所、練習問題の復習
3	音節、リエゾン	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 1 の該当箇所、練習問題の復習
4	挨拶する	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 1 の該当箇所、練習問題の復習
5	主語人称代名詞、人称代名詞強勢形、動詞 être、アンシェヌマン	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 2 の該当箇所、練習問題の復習
6	名前・国籍・職業を言う	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 2 の該当箇所、練習問題の復習
7	名詞の性と数、不定冠詞、数字、動詞 avoir	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 3 の該当箇所、練習問題の復習
8	否定文、エリズィオン	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 3 の該当箇所、練習問題の復習
9	年齢を言う、家族を語る	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 3 の該当箇所、練習問題の復習
10	定冠詞、動詞 aimer 好きなものを言う	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 4 の該当箇所、練習問題の復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
11	疑問文 好きなものを言う	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 4 の該当箇所、 練習問題の復習
12	形容詞の位置、女性形と複数形	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 6 の該当箇所、 練習問題の復習
13	友達について話す	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 6 の該当箇所、 練習問題の復習
14	まとめと復習	練習問題・復習小テスト	テキスト Leçon 0-4・6、配布 プリント、練習問題の復習
15	Leçon 0-4・6、配布プリントに関する質疑応答、第1回授業内試験	質疑応答・試験	総合的復習
16	試験の返却、および解説	講義	試験結果を踏まえての復習
17	指示代名詞 ce、所有形容詞	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 5 の該当箇所、 練習問題の復習
18	指示形容詞、人称代名詞強勢形	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 5 の該当箇所、 練習問題の復習
19	持ち物を言う	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 5 の該当箇所、 練習問題の復習
20	動詞 aller と venir、定冠詞の縮約、中性代名詞 y	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 8 の該当箇所、 練習問題の復習
21	近接未来、近接過去 近い未来、近い過去のことを語る	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 8 の該当箇所、 練習問題の復習
22	補語人称代名詞 ① 直接補語	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 11 の該当箇所、 練習問題の復習
23	補語人称代名詞 ② 間接補語 紹介する	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 11 の該当箇所、 練習問題の復習
24	疑問代名詞 尋ねる ① 誰・何	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 7 の該当箇所、 練習問題の復習
25	疑問副詞 尋ねる ② どのように、なぜ、いつ、どこで	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 7 の該当箇所、 練習問題の復習
26	部分冠詞	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 10 の該当箇所、 練習問題の復習
27	数量の表現、中性代名詞 en 数量を表す	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 10 の該当箇所、 練習問題の復習
28	まとめと復習	練習問題・復習小テスト	テキスト Leçon 5・7・8・10・ 11、練習問題の復習
29	Leçon 5・7・8・10・11 に関する質疑応答、 第2回授業内試験	質疑応答・試験	総合的復習
30	試験の返却、および解説	講義	試験結果を踏まえての復習

テキスト	藤田裕二、藤田知子、Sylvie GILLET 『新・東京 — パリ、初飛行 [新装改訂二版]』(駿河台出版社)
参考書	田島宏編 『コレクションフランス語①入門』『コレクションフランス語②初級』『コレクションフランス語③文法』(白水社)
履修条件、 前提科目	初学者、初級者向けであり、この言語を母語とする学生、および日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則、不可とする。
その他 特記事項	授業はテキストに沿って進めるが、必要に応じてプリントを配布する。

科目名	FRN102: フランス語 II				担当教員	塩谷 優衣		
開講期	春	開講時限	月木 4 限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16 を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP 及び 学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-①	
キーワード	フランス語初級、フランス語検定 5 級							
授業の 概要	「フランス語 I」履修者を主な対象とする。「フランス語 I」に引き続き、基礎的な文法をテキストに沿って学び、学んだことを踏まえて、読む・聞く・話す・書く練習を行う。練習を繰り返し、学んだことを小テストで確認することにより、これら 4 つの能力を、フランス語検定 5 級に相当するレベルでバランスよく習得することを目指す。							
達成目標	本科目は、学生がフランス語で読む・聞く・話す・書く力を、フランス語検定 5 級に相当するレベルで習得するために、基礎的な文法を理解し、練習を通してそれらを運用する力を身につけることを目的とする。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なフランス語の文章を正しい発音で読み、理解することができる。 ・簡単なフランス語の文章または会話を聞き取り、理解することができる。 ・自分や周囲の人・物・事について、簡単なフランス語で説明し、質問することができる。 ・簡単なフランス語を用いて、短い文章を作文することができる。 							
評価方法	授業時の積極参加 20%、第一回授業内試験 30%、第二回授業内試験 30%、小テスト 20%							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の積極参加：発音・会話を含む練習問題に参加しているか ・授業内試験、小テスト：授業に基づいた内容を読み、聞き取り、書くことができるか 							
準備学修 の時間	本科目の一回 (90 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 45 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	授業概要の説明 フランス語 I の復習 ① 発音と綴り	講義・練習問題	テキスト各 Leçon の該当箇所、練習問題の復習
2	フランス語 I の復習 ② 人称代名詞、動詞 être、形容詞	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 3 の該当箇所、練習問題の復習
3	フランス語 I の復習 ③ 動詞 avoir、疑問副詞、疑問形容詞	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 4 の該当箇所、練習問題の復習
4	フランス語 I の復習 ④ 動詞 aimer、定冠詞と不定冠詞の使い分け、指示代名詞 ce	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 5 の該当箇所、練習問題の復習
5	フランス語 I の復習 ⑤ 疑問代名詞、所有形容詞	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 5、7 該当箇所、練習問題の復習
6	非人称表現、定冠詞の縮約、中性代名詞 y	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 6 の該当箇所、練習問題の復習
7	近接未来、指示形容詞	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 8 の該当箇所、練習問題の復習
8	直接目的語	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 10 の該当箇所、練習問題の復習
9	近接過去	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 9 の該当箇所、練習問題の復習
10	形容詞の比較級・最上級	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 9 の該当箇所、練習問題の復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
11	代名動詞	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon11 の該当箇所、練習問題の復習
12	命令法	講義・練習問題・復習 小テスト	配布プリント、練習問題の復習
13	義務を表す表現	講義・練習問題・復習 小テスト	配布プリント、練習問題の復習
14	まとめと復習	練習問題・復習小テスト	テキスト Leçon 6・8-11、配布プリント、練習問題の復習
15	Leçon 6・8-11、配布プリントに関する質疑応答、第一回授業内試験	質疑応答、試験	総合的復習
16	試験の返却、および解説	講義	試験結果を踏まえての復習
17	間接目的語	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 12 の該当箇所、練習問題の復習
18	直接法複合過去 avoir を使う過去分詞	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 12 の該当箇所、練習問題の復習
19	直接法複合過去 être を使う過去分詞	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 12 の該当箇所、練習問題の復習
20	代名動詞の複合過去形	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 13 の該当箇所、練習問題の復習
21	フランス映画鑑賞	DVD 視聴	テキスト Leçon 12・13、練習問題の復習
22	直接法半過去	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 14 の該当箇所、練習問題の復習
23	複合過去と半過去の使い分け	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 14 の該当箇所、練習問題の復習
24	理由を表す接続詞 comme、parce que	講義・練習問題・復習 小テスト	テキスト Leçon 15 の該当箇所、練習問題の復習
25	関係代名詞 qui、que	講義・練習問題・復習 小テスト	配布プリント、練習問題の復習
26	関係代名詞 dont、où	講義・練習問題・復習 小テスト	配布プリント、練習問題の復習
27	強調構文	講義・練習問題・復習 小テスト	配布プリント、練習問題の復習
28	まとめと復習	練習問題・復習小テスト	テキスト Leçon 12-15、配布プリント、練習問題の復習
29	Leçon 12-15、配布プリントに関する質疑応答、第二回授業内試験	質疑応答、試験	総合的復習
30	試験の返却、および解説	講義	試験結果を踏まえての復習

テキスト	セシル・モレル『エリック エリックと京の物語：会話編』(朝日出版社)
参考書	田島宏編『コレクションフランス語①入門』『コレクションフランス語②初級』『コレクションフランス語③文法』(白水社)
履修条件、前提科目	フランス語 I を履修済みであるか、またはそれと同等のレベルであること。ただし、この言語を母語とする学生、および日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則、不可とする。P.58 の (11) 参照。
その他特記事項	授業はテキストに沿って進めるが、必要に応じてプリントを配布する。

科目名	SPN101: スペイン語 I				担当教員	山本 浩史		
開講期	春/秋	開講時限	月木3限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-①	
キーワード	第二外国語、スペイン語、スペイン、西欧、ラテンアメリカ							
授業の概要	スペイン語は全世界で4億人以上の話者を持つ言語です。ヨーロッパのスペイン及びラテンアメリカの多くの国々でスペイン語が話されています。それぞれの国で多少の違いがありますが、基本は同じです。言語を通じて、スペイン語圏の文化習慣も学んでいきます。授業は前回の復習や概要の説明から始まり、課題と小テストなども行います。							
達成目標	簡単な会話や挨拶、自己紹介などスペイン語で行えることを目指します。そのために、正しい発音とイントネーションを学ぶための発音練習を行います。またスペイン語の基礎文法を理解するために重要な、スペイン語動詞の活用を重点的に学習します。表現を深く理解するためにスペイン、ラテンアメリカの文化や習俗を学びます。							
到達目標	この学習でスペイン語技能検定6級の試験が受けられる程度の学力を目指す。6級の試験内容は動詞の直説法現在までと、名詞、冠詞、形容詞、前置詞、接続詞、疑問詞の用法です。語彙量は500語程度を想定しています。							
評価方法	小テスト(15%)、達成度テスト1(30%)、達成度テスト2(30%)、提出物(15%)、授業参加(10%)							
評価基準	小テスト：前回の授業の復習を行っているか。 達成度テスト1：中間までの内容を把握しているか。 達成度テスト2：前期の内容全体を把握しているか。 提出物：その時に課題になっている動詞の変化や文型を正しく書くことができるか。 授業参加：質問を真面目に考えて答えられるか。							
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均45分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	スペイン語圏とは スペイン語の挨拶 アルファベットと発音	講義 発音練習	挨拶とアルファベットの復習教科書
2	スペイン語圏とは スペイン語の挨拶 アルファベットと発音	講義 発音練習	教科書 Lección 1 予習
3	名詞の性と数	講義 前回の復習	教科書 Lección 2 予習
4	定冠詞と不定冠詞	講義 前回の復習	教科書 Lección 2 予習
5	肯定文否定文疑問文	講義 前回の復習	教科書 Lección 2 予習
6	ser動詞の活用	講義 前回の復習	教科書 Lección 3 予習
7	ser動詞の用法	講義 前回の復習	教科書 Lección 3 予習
8	estar動詞の活用と用法	講義 前回の復習	教科書 Lección 4 予習
9	ser, estar, hayの使い分け	講義 前回の復習	教科書 Lección 4 予習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	基本動詞の考え方まとめ	講義 前回の復習 小テスト	教科書 Lección 1~4 復習
11	規則動詞arの活用	講義 前回の復習	教科書 Lección 5 予習
12	規則動詞arの用法	講義 前回の復習	教科書 Lección 5 予習
13	規則動詞 er, ir の活用	講義 前回の復習	教科書 Lección 6 予習
14	規則動詞 er,ir の用法	講義 前回の復習	教科書 Lección 6 予習
15	動詞活用のまとめ	講義 前回の復習 小テスト	教科書 Lección 5~6 予習
16	達成度テスト 1	テストや見直しなど	教科書 Lección 1~6 復習
17	目的格人称代名詞の用法	講義 前回の復習 テスト返し	教科書 Lección 7 予習
18	gustar 型動詞の考え方	講義 前回の復習	教科書 Lección 7 予習
19	gustar 型動詞の用法	講義 前回の復習	教科書 Lección 7 予習
20	目的格のまとめ	講義 前回の復習 小テスト	教科書 Lección 7 復習
21	語幹母音変化動詞の活用	講義 前回の復習	教科書 Lección 8 予習
22	語幹母音変化動詞の用法	講義 前回の復習	教科書 Lección 8 予習
23	不規則動詞の活用	講義 前回の復習	教科書 Lección 9 予習
24	不規則動詞の用法	講義 前回の復習	教科書 Lección 9 予習
25	不規則変化動詞まとめ	講義 前回の復習 小テスト	教科書 Lección 8~9 復習
26	再帰動詞の活用	講義 前回の復習	教科書 Lección 10 予習
27	再帰動詞の用法	講義 前回の復習	教科書 Lección 10 予習
28	再起構文等の構文まとめ	講義 前回の復習 小テスト	教科書 Lección 10 予習
29	達成度テスト 2	テスト	教科書 Lección 6~10 予習
30	全体のまとめと復習	テスト返しと見直し	今までの復習

テキスト	マヌエラ・アルマラス, <i>Plaza Mayor I Versión Revisada</i> (朝日出版社)
参考書	小林一弘 エレナ・ガジェゴ『スペイン語文法と実践』(朝日出版社)
履修条件、 前提科目	初学者、初級者向けであり、この言語を母語とする学生、および日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則、不可とする。
その他 特記事項	継続的に復習をすることが望ましい。 また、授業内で意見を求められたら、正解・不正解は問わないので真面目に考えて回答すること。試行錯誤が大事です。

科目名	SPN102: スペイン語Ⅱ				担当教員	山本 浩史		
開講期	春	開講時限	月木4限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-①	
キーワード	第二外国語、スペイン語、スペインとラテンアメリカ							
授業の概要	スペイン語Ⅰの復習をしながら理解度を高めていきます。現在形のみならず過去形、未来形など、日常会話にかかせない文法事項もまとめて学習していきます。簡単な日記程度ならスペイン語で読み書きできることを目指します。覚える内容がかなり多岐にわたるので継続学習が求められます。							
達成目標	日常的な出来事を、過去などの時制の変化を適切に使い表現できることを目指す。そのために、特殊な変化をする過去、未来時制の活用形を重点的に学びます。 合わせて慣用表現などを学び、決まり文句にとどまらない表現を目指します。							
到達目標	この学習でスペイン語技能検定5級の試験が受けられる程度の学力がつかます。5級の試験内容は、初級文法(全時制を含み、接続法を除く)までの平易な文章の読み書きができることです。語彙量は1,200語程度を想定しています。							
評価方法	小テスト(15%)、中間テスト(30%)、達成度テスト(30%)、提出物(15%)、授業参加(10%)							
評価基準	小テスト：前回授業の復習などを行っているか 達成度テスト1：中間までの内容を把握しているか 達成度テスト2：後期の内容全体を把握しているか 提出物：その時に課題となっている時制の変化を正しく用いることができるか 授業参加：質問を真面目に考えて答えられるか							
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均45分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	スペイン語Ⅰの復習 基礎表現 名詞と形容詞の関係	講義、発音練習	教科書 Lección1~4の復習
2	スペイン語Ⅰの復習 動詞の規則・不規則活用	講義、発音、練習問題	教科書 Lección5~6の復習
3	スペイン語Ⅰの復習 目的格代名詞や gustar 型動詞	講義、発音、練習問題	教科書 Lección7~8の復習
4	スペイン語Ⅰの復習 再帰動詞や gustar 型動詞などのスペイン語独特の考え方	講義、発音、練習問題	教科書 Lección9~10の復習
5	過去分詞とその用法	講義、発音、練習問題	教科書 Lección11の予習
6	現在完了の活用	講義、発音、練習問題	教科書 Lección11の予習
7	現在完了の用法	講義、発音、練習問題	教科書 Lección11の予習
8	現在完了と過去分詞まとめ	講義、発音、小テスト	教科書 Lección11の予習
9	点過去規則形の活用	講義、発音、練習問題	教科書 Lección12の予習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	点過去規則形の用法	講義、発音、練習問題	教科書 Lección12 の予習
11	点過去規則形まとめ	講義、発音、小テスト	教科書 Lección12 の予習
12	点過去不規則形の活用	講義、発音、練習問題	教科書 Lección13 の予習
13	点過去不規則形の用法とまとめ	講義、発音、練習問題	教科書 Lección13 の予習
14	達成度テスト1	テスト	教科書 Lección10~13 の復習
15	線過去形の活用	講義、発音、練習問題 テスト返し	教科書 Lección14 の予習
16	線過去形の用法	講義、発音、練習問題	教科書 Lección14 の予習
17	線過去形のまとめ	講義、発音、小テスト	教科書 Lección14 の復習
18	現在完了と線過去と点過去の違い	講義、発音、練習問題	教科書 Lección13~14 の復習
19	点過去と現在完了の使い分け	講義、発音、練習問題	教科書 Lección11,13 の復習
20	点過去と線過去の使い分け	講義、発音、練習問題	教科書 Lección13~14 の復習
21	過去時制そのものの考え方まとめ	講義、発音、小テスト	教科書 Lección11~14 の復習
22	未来形の活用	講義、発音、練習問題	教科書 Lección15 の予習
23	未来形の用法	講義、発音、練習問題	教科書 Lección15 の予習
24	未来形まとめ	講義、発音、小テスト	教科書 Lección15 の復習
25	過去未来形の活用	講義、発音、練習問題	教科書 Lección15 の予習
26	過去未来形の用法	講義、発音、練習問題	教科書 Lección15 の予習
27	過去未来形まとめ	講義、発音、小テスト	教科書 Lección15 の復習
28	未来形まとめと過去時制との関係性まとめ	講義、発音、練習問題	教科書 Lección11~15 の復習
29	達成度テスト2	テスト	教科書 Lección10~15 の復習
30	テスト返しと全体のまとめ	全体のまとめ	全体の見直し

テキスト	マヌエラ・アルマラス, <i>Plaza Mayor I Versión Revisada</i> (朝日出版社)
参考書	小林一弘 エレナ・ガジェゴ『スペイン語文法と実践』(朝日出版社)
履修条件、 前提科目	スペイン語 I を履修済みであるか、またはそれと同等のレベルであること。ただし、この言語を母語とする学生、および日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則、不可とする。
その他 特記事項	継続的に復習をすることが望ましい。 また、授業内で意見を求められたら、正解・不正解は問わないので真面目に考えて回答すること。試行錯誤が大事です。

科目名	CHN101: 中国語 I					担当教員	廣重 聖佐子	
開講期	春/秋	開講時限	月木3限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び 学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-①	
キーワード	中国語							
授業の 概要	今年度は教科書の前半部分を学習する。各課は単語、文法解説、本文解説、音読練習、練習問題の順序で授業を進め、2回の授業で1課を終了する。音読練習の後に各課音読テストをする。授業は本文の音読練習として、繰り返し練習することで学習の定着をはかる。また同時に中華圏の文化や習慣も学んでいく。							
達成目標	中国語学習に必要な不可欠なピンイン、入門初級程度の基本的な文法事項を反復練習によって習得する。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の基本的な単語や文法事項が理解できる。 練習問題や宿題プリント等で簡単な和文中訳ができる。 本文の音読ができる。(ピンインが発音できる) 							
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 文法事項の確認として2回の授業内筆記試験(70%) 当日の授業内容の確認として、授業内の提出物と宿題プリント(20%) 各課の音読テスト(10%) 							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の本文が理解でき、練習問題の和文中訳ができていないか。 各単元の基本的な単語や文法事項が理解できていないか。 ピンインが習得できていないか。(音読テスト・ピンインから中国語にできる) 							
準備学修 の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均45分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	1課 発音(1) 変調① 基本母音	発音練習	1課の音読練習 宿題プリント
2	2課 発音(2) 軽声 無気音と有気音 変調②	発音練習	2課の音読練習 宿題プリント
3	3課 子音	発音練習	3課の音読練習 宿題プリント
4	4課 ピンイン表記上の注意 鼻音 声調記号をつける位置	発音練習	4課の音読練習 宿題プリント
5	5課 母音 挨拶	発音練習 聞き取り練習①	5課の音読練習 宿題プリント
6	6課 アル化 隔音記号	発音練習	6課の音読練習 宿題プリント
7	7課 代名詞① 疑問文と否定文 否定+肯定の疑問文 説明	単語と文法解説 音読練習	7課の単語と文法の確認 宿題プリント
8	7課 代名詞① 疑問文と否定文 否定+肯定の疑問文 練習	音読テスト 練習問題	7課の音読練習 宿題プリント
9	8課 名前の尋ね方と答え方 説明	単語と文法解説 音読練習	8課の単語と文法の確認 宿題プリント
10	8課 名前の尋ね方と答え方 練習	音読テスト 練習問題	8課の音読練習 宿題プリント

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
11	9課 代名詞② “是”を用いる文 疑問詞“什么”と“谁” 説明	単語と文法解説 音読練習	9課の単語と文法の確認 宿題プリント
12	9課 代名詞② “是”を用いる文 疑問詞“什么”と“谁” 練習	音読テスト 練習問題	9課の音読練習 宿題プリント
13	前半の復習	総復習	1課から9課までの復習
14	授業内筆記試験①と解説	授業内試験と解説	1課から9課までの復習
15	10課 “A的B” “AB”の用法 副詞“也”“都” 説明	単語と文法解説 音読練習	10課の単語と文法の確認 宿題プリント1
16	10課 “A的B” “AB”の用法 副詞“也”“都” 練習	音読テスト 練習問題 聞き取り練習②	10課の音読練習 宿題プリント
17	11課 動詞+目的語(肯定と否定) 動詞 +疑問詞の文 代名詞(3) 説明	単語と文法解説 音読練習	11課の単語と文法の確認 宿題プリント1
18	11課 動詞+目的語(肯定と否定) 動詞 +疑問詞の文 代名詞(3) 練習	音読テスト 練習問題	11課の音読練習 宿題プリント
19	12課 動詞“有”のある文① 変調③ 量詞(助数詞) 説明	単語と文法解説 音読練習	12課の単語と文法の確認 宿題プリント1
20	12課 動詞“有”のある文① 変調③ 量詞(助数詞) 練習	音読テスト 練習問題	12課の音読練習 宿題プリント
21	13課 疑問詞“几” 動詞“有”のある文 ② “A、B …和~” 説明	単語と文法解説 音読練習	13課の単語と文法の確認 宿題プリント1
22	13課 疑問詞“几” 動詞“有”のある文 ② “A、B …和~” 練習	音読テスト 練習問題	13課の音読練習 宿題プリント
23	14課 月日の言い方 曜日の言い方 説明	単語と文法解説 音読練習	14課の単語と文法の確認 宿題プリント1
24	14課 月日の言い方 曜日の言い方 練習	音読テスト 練習問題	14課の音読練習 宿題プリント
25	15課 時刻の言い方 「いつ…する」 説明	単語と文法解説 音読練習	15課の単語と文法の確認 宿題プリント1
26	15課 時刻の言い方 「いつ…する」 練習	音読テスト 練習問題 聞き取り練習③	15課の音読練習 宿題プリント
27	16課 “怎么”“怎么样”など 文末の“了” ① 「AはBが…だ」説明	単語と文法解説 音読練習	16課の単語と文法の確認 宿題プリント1
28	16課 “怎么”“怎么样”など 文末の“了” ① 「AはBが…だ」練習	音読テスト 練習問題 聞き取り練習③	16課の音読練習 宿題プリント
29	授業内筆記試験②と解説	授業内試験と解説	10課から16課までの復習
30	後半の復習と音読テスト	復習	10課から16課までの復習

テキスト	小川郁夫著『初級中国語 教科書+ドリル』(白帝社)
参考書	小川郁夫著『問題を解いて覚える中国語 1』(白帝社)
履修条件、 前提科目	初学者、初級者向けであり、この言語を母語とする学生、および日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則、不可とする。
その他 特記事項	20分以上の遅刻は欠席とする。

科目名	CHN102: 中国語 II				担当教員	廣重 聖佐子		
開講期	春	開講時限	月木4限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-①	
キーワード	中国語							
授業の概要	今年度は前年度使用した教科書の後半部分を学習する。各課は単語と文法解説後、自分で本文より文法チェックし、和訳を試みることを学習の中心とする。その後音読練習と音読テスト、例文を用いた会話練習、和文中訳等で学習の定着をはかる。また準備学習として、事前単語シートと事前に本文にピンインを書いて、授業での音読練習に備えること。							
達成目標	中国語の初級課程を完了するとともに、学習した構文を自分で分析して簡単な文章を中国語で書くことができる。また音読練習、会話練習の成果として、簡単な日常会話と自己紹介ができる。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の音読ができる。 ・文法事項が理解でき、和訳と練習問題ができる。 ・例文等を用いて中国語で表現できる。 							
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な文法事項や単語確認として、2回の授業内試験(70%) ・当日学習内容の確認として、授業内提出物と宿題プリント(20%) ・音読学習の確認として、中国語による自己紹介ができるか(10%) 							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・2回の授業内筆記試験：基本的な文法事項ができているか。 ・授業内提出物と宿題プリント：本文和訳と文法事項が理解できているか。 ・中国語による自己紹介ができるか。 							
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均45分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	16課 助動詞“会”の用法 二重目的語文説明	単語と文法の解説 本文の解説	16課事前学習単語シート 文法事項の復習
2	16課 助動詞“会”の用法 二重目的語文練習	本文の音読練習と音読テスト、ドリル	本文の音読練習 復習プリント
3	17課 助動詞“可以”の用法 副詞“有点儿”と名詞“一点儿”説明	単語と文法の解説 本文の解説	17課事前学習単語シート 文法事項の復習
4	17課 助動詞“可以”の用法 副詞“有点儿”と名詞“一点儿”練習	本文の音読練習と音読テスト、ドリル	本文の音読練習 復習プリント
5	18課 様態補語 時間の長さ 説明	単語と文法の解説 本文の解説	18課事前学習単語シート 文法事項の復習
6	18課 様態補語 時間の長さ 練習	本文の音読練習と音読テスト、ドリル	本文の音読練習 復習プリント
7	19課 結果補語 回数の言い方 説明	単語と文法の解説 本文の解説	19課事前学習単語シート 文法事項の復習
8	19課 結果補語 回数の言い方 練習	本文の音読練習と音読テスト、ドリル	本文の音読練習 復習プリント
9	20課 “是～的”構文 禁止を表す“别”と“不要”説明	単語と文法の解説 本文の解説	20課事前学習単語シート 文法事項の復習
10	20課 “是～的”構文 禁止を表す“别”と“不要”練習	本文の音読練習と音読テスト、ドリル	本文の音読練習 復習プリント

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
11	21 課 方向補語 動作行為の完了を表す助詞“了” 説明	単語と文法の解説 本文の解説	21 課事前学習単語シート 文法事項の復習
12	21 課 方向補語 動作行為の完了を表す助詞“了” 練習	本文の音読練習と音読テスト、ドリル	本文の音読練習 復習プリント
13	授業内筆記試験①と解説	筆記試験と解説	16 課から 22 課までの復習
14	22 課 動作行為の進行を表す表現 可能補語 説明	単語と文法の解説 本文の解説	22 課事前学習単語シート 文法事項の復習
15	22 課 動作行為の進行を表す表現 可能補語 練習	本文の音読練習と音読テスト、ドリル	本文の音読練習 復習プリント
16	23 課 前置詞“离”“从”“到” 程度補語 説明	単語と文法の解説 本文の解説	23 課事前学習単語シート 文法事項の復習
17	23 課 前置詞“离”“从”“到” 程度補語 練習	本文の音読練習と音読テスト、ドリル	本文の音読練習 復習プリント
18	24 課 助動詞“能” 助動詞“会”2(蓋然性の使い方) 説明	単語と文法の解説 本文の解説	24 課事前学習単語シート 文法事項の復習
19	24 課 助動詞“能” 助動詞“会”2(蓋然性の使い方)	本文の音読練習と音読テスト、ドリル	本文の音読練習 復習プリント
20	25 課 使役表現 主述述語文 説明	単語と文法の解説 本文の解説	25 課事前学習単語シート 文法事項の復習
21	25 課 使役表現 主述述語文 練習	本文の音読練習と音読テスト、ドリル	本文の音読練習 復習プリント
22	26 課 “把”構文 現存文 説明	単語と文法の解説 本文の解説	26 課事前学習単語シート 文法事項の復習
23	26 課 “把”構文 現存文 練習	本文の音読練習と音読テスト、ドリル	本文の音読練習 復習プリント
24	27 課 不定疑問文 受け身表現 説明	単語と文法の解説 本文の解説	27 課事前学習単語シート 文法事項の復習
25	27 課 不定疑問文 受け身表現 練習	本文の音読練習と音読テスト、ドリル	本文の音読練習 復習プリント
26	28 課 助詞“着” “就要～了”の構文 説明	単語と文法の解説 本文の解説	28 課事前学習単語シート 文法事項の復習
27	28 課 助詞“着” “就要～了”の構文 練習	本文の音読練習と音読テスト、ドリル	本文の音読練習 復習プリント
28	自己紹介文の作成	中国語で自己紹介文の作成	総復習
29	授業内筆記試験②と解説	筆記試験と解説	23 課から 28 課までの復習
30	総復習 自己紹介の発表	自己紹介の発表テスト	自己紹介文の発表準備

テキスト	陳淑梅・張国璐『いま始めよう!アクティブラーニング 初級中国語』(朝日出版)
参考書	郭春貴『中国語検定対策3級4級文法・単語編』(白帝社)
履修条件、前提科目	中国語Iを履修済みであるか、またはそれと同等のレベルであること。ただし、この言語を母語とする学生、および日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則、不可とする。P.58の(11)参照。
その他特記事項	就職活動で欠席をする者は、事前にメールで連絡すること。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。

科目名	JPN250: 日本語表現法					担当教員	河北 祐子	
開講期	春/秋	開講時限	(春)火金2限 (秋)月木3限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-①	
キーワード	書き言葉と話し言葉、事実・意見・感情、構成							
授業の概要	テキストに従って基本的な論文の構造と表現を学ぶ。ペアワーク・グループワークを重視する。宿題・中間発表、小論文提出までの各作業と教員を中心とするフィードバックを通じ、論文にふさわしい文章表現を身につける。							
達成目標	自分の日本語表現を客観的に振り返り、より分かりやすく自分の考えを表現できるよう改善し、大学生らしい論文表現が使えるようになる。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・事実と意見、あるいは他人と自分の考え・意見を区別して表現する。 ・論文にふさわしい構造と文章表現を学び、使えるようになる。 ・小論文を書くための論文構成を学び、小論文を完成させる。 							
評価方法	授業時の積極的参加 20% 提出物と期限 15% 中間発表 25%、小論文 40%							
評価基準	授業時の積極的参加：ペア・グループワーク時にほかの学生に迷惑をかけず、自分の意見をきちんと相手にフィードバックする。 提出物と期限：毎回の課題を次回までに提出する。 中間発表：定められた日程に従った発表を行い、要求されたポイントをきちんと押さえた内容であること。 小論文：授業で学んだ内容を守り、期日までに提出する。							
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	クラスオリエンテーション	講義、グループワーク	テキストを購入し、構成を理解する。
2	〔基礎編〕よく使われる文の形、語と表現	講義 ペア・グループワーク	pp.1-8を読んでくる。 課題提出
3	引用、要約、句読点 実際の論文で確かめる。	講義 ペア・グループワーク	pp.9-15を読んでくる。 課題提出
4	表記規則、まとめの練習	講義 ペア・グループワーク	pp.16-22を読んでくる。 課題提出
5	〔論文編〕論文とは、論文の構成 実際の論文で確かめる。	講義 ペア・グループワーク	pp.24-28を読んでくる。 課題提出
6	構成の作り方、本論のまとめ方	講義 ペア・グループワーク	pp.29-42を読んでくる。 課題提出
7	書いてみよう①、3種類の文(FOA) 書いてみよう②	講義 ペア・グループワーク	pp.43-47を読んでくる。 課題提出
8	論文のモデル	講義 ペア・グループワーク	pp.48-50を読んでくる。 課題提出
9	〔論文編Ⅱ序論〕序論の役割、背景説明：事物の説明、先行研究の紹介等	講義 ペア・グループワーク	pp.51-63を読んでくる。 課題提出

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	問題提起、方向付け 書いてみよう	講義 ペア・グループワーク	pp.64-74 を読んでくる。 課題提出
11	全体の予告 〔本論編〕本論の役割	講義 ペア・グループワーク	pp.75-83 を読んでくる。 課題提出
12	論拠提示：データ提示、事柄データ	講義 ペア・グループワーク	pp.84-87 を読んでくる。 課題提出
13	数量データ、文章データ	講義 ペア・グループワーク	pp.88-93 を読んでくる。 課題提出
14	意見提示、データ解釈、考察	講義 ペア・グループワーク	pp.94-99 を読んでくる。 課題提出
15	結論提示、行動提示、部分の予告、部分のまとめ	講義 ペア・グループワーク	pp.100-110 を読んでくる。 課題提出
16	論の展開 書いてみよう	講義 ペア・グループワーク	pp.111-117 を読んでくる。 課題提出
17	〔論文編〕 結びの役割、全体のまとめ	講義 ペア・グループワーク	pp.118-122 を読んでくる。 序論、論拠 A を書く。
18	タスク 評価、展望提示	講義 ペア・グループワーク	pp.123-132 を読んでくる。 課題提出
19	中間発表①	相互評価、質疑応答	論拠 A までの口頭発表 小論文の文章化
20	中間発表②	相互評価、質疑応答	論拠 A までの口頭発表 小論文の文章化
21	中間発表③	相互評価、質疑応答	論拠 A までの口頭発表 小論文の文章化
22	中間発表④	相互評価、質疑応答	論拠 A までの口頭発表 小論文の文章化
23	中間発表⑤	相互評価、質疑応答	論拠 A までの口頭発表 小論文の文章化
24	中間発表振り返り① 〔資料編〕図表、資料に関する表現	講義、ペアワーク 論文添削	pp.134-152 を読んでくる。 課題提出
25	展開の技術：例、対比、推論、結論 中間発表振り返り②	講義、ペアワーク 論文添削	pp.153-166 を読んでくる。 課題提出
26	論文の付属要素：表題、要旨、キーワード、 参考文献 中間発表振り返り③	講義、ペアワーク 論文添削	pp.167-175 を読んでくる。 課題提出
27	中間発表振り返り④ 最終論文作成	グループワーク 個別指導	論文作成
28	中間発表振り返り⑤ 最終論文作成	グループワーク 個別指導	論文作成
29	最終論文作成	グループワーク 個別指導	論文作成
30	授業振り返り	講義 グループワーク	論文提出へ向けた最終確認

テキスト	浜尾麻里、平尾得子、由井紀久子『大学生と留学生のための論文ワークショップ』（くろしお出版）
参考書	上智大学紀要、新聞各紙等

科目名	SEF200: キャリアプランニング					担当教員	森下 園	
開講期	秋	開講時限	月 5 限	研究室	4202	オフィスアワー	P.16 を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-①	
キーワード	キャリアデザイン、ライフコース、社会保障、労働法、卒業生との交流							
授業の概要	本学ソフィア会(同窓会)の支援により、社会の様々な分野で「Women for Others, with Others」を実践している卒業生の方々による講演・質疑応答を通して、卒業後のキャリアプランをどう組み立てるか考える。また、あわせて労働法などの基礎知識についても学ぶ。同窓生以外のゲスト講師の講演を2回含む。							
達成目標	卒業後の人生設計について様々な可能性やその実現に向けて必要なステップを考え、各自のキャリアプランを組み立てることが目標である。またそのために必要な知識・情報を適切に得る方法を身につける。							
到達目標	①現在の社会情勢と女性のライフコースの問題を各自で考え、卒業生の講演内容やグループワークを通して将来の多様な可能性について考察できるようになる。 ②労働法や社会の基礎知識を身につける。 ③各自のキャリアプランを設計できるようになる。							
評価方法	①卒業生の講演へのリアクションペーパーを授業終了時に提出(4%×12回=48%) ②労働法や社会の基礎知識に関する小テスト(20%) ③キャリアプランの作成(32%)							
評価基準	①リアクションペーパー:内容をきちんと理解しているか、適切な意見・質問が出されているか ②就職活動でも求められる基礎知識が身についているか ③キャリアプラン:書式・期限を守り現実的なプランを作成しているか							
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	ガイダンス、現代日本の女性のライフコース	講義、質疑応答	参考文献を読む
2	労働法の基礎知識	講義、質疑応答、リアクションペーパー①	次回トピックの予習
3	編入・就職・留学	講義、質疑応答、リアクションペーパー②	次回トピックの予習
4	英語教育(1)教材開発	講義、質疑応答、リアクションペーパー③	次回トピックの予習
5	英語教育(2)小学校外国語活動	講義、質疑応答、リアクションペーパー④	次回トピックの予習
6	金融機関で働く	講義、質疑応答、リアクションペーパー⑤	次回トピックの予習
7	メーカーで働く	講義、質疑応答、リアクションペーパー⑥	次回トピックの予習 小テスト準備
8	少子高齢化と地方行政、地方公務員	講義、質疑応答、リアクションペーパー⑦	小テスト準備
9	労働法・社会保障・社会人の基礎知識 小テスト	講義、質疑応答、小テスト	次回トピックの予習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	資格による自営	講義、質疑応答、リアクションペーパー⑧	次回トピックの予習
11	着物とマナー	講義、質疑応答、リアクションペーパー⑨	次回トピックの予習
12	デザインの仕事	講義、質疑応答、リアクションペーパー⑩	次回トピックの予習
13	民生委員の仕事	講義、質疑応答、リアクションペーパー⑪	次回トピックの予習 キャリアプラン作成
14	航空業界の仕事	講義、質疑応答、リアクションペーパー⑫	次回トピックの予習 キャリアプラン作成
15	これからの社会と生き方 小テスト返却と講評、キャリアプラン提出	ディスカッション	キャリアプラン作成

テキスト	なし、授業内容のプリントを配布
参考書	野村康則「女性のキャリアデザインと就業状況」『安田女子大学紀要』(43号、2015、CiNiiにあり、インターネット上で読める)
その他 特記事項	本講座は上智大学短期大学部ソフィア会(同窓会)の寄付講座である。社会で活躍されている卒業生の方々がボランティアで講師をご担当下さるものである。なお卒業生の講演内容・講演回は講師の方々のご都合により変更の可能性がある。詳細は9月にLoyola 授業掲示板にアップする。

科目名	ENG250: 留学準備 (イギリス)					担当教員	岩崎 明子	
開講期	春	開講時限	月 5 限	研究室	4213	オフィスアワー	P.16 を参照のこと	
分類	選択	単位	1	標準受講年次	1・2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-①	
キーワード	留学に役立つ英国の日常生活、文化、習慣などの知識							
授業の概要	この授業では、本学が認定するイギリスのグロースターシャー大学での約 4 週間の海外短期語学講座プログラムに参加する学生が、同プログラムに関する予備知識や、渡航、現地生活、安全管理に関する留意事項を学び、各自が目的意識を持ち、規律正しい、安心できる留学生活を送ることができることを目指す。授業時間を適宜分け、授業の前半では実践的英語表現の習得を目的とするトレーニングを行う。							
達成目標	学生は留学先で想定される異文化体験への準備を行い、自分自身の学びと成長の軌跡を省察し、目的意識と自信をもって留学に向かうことができるようになる。自国の文化と留学先の異文化を客観的に対比、理解できるようになる。さらに、留学に必要な英語表現を学ぶことにより、留学先での英語運用とより発展的な英語学習に備える。安全に留学が完遂できるよう、海外生活に関する知識、心得、及び危機管理の方策を学ぶ。							
到達目標	① イギリス及び日本についての基本的知識を深め、それについて自らの考えを英語で発信できる。 ② トレーニングを通して留学のさまざまな場面に必要な実践的英語表現を習得する。 ③ 海外生活での基本的マナーおよび危険回避について理解する。							
評価方法	PPT 発表 (イギリスと日本: 文化、歴史、伝統) ペア発表 1 回、期末個人発表 40% 英語運用能力向上のための活動 (英語スキット) 40% Report: "What did you learn from the guidance of 危機管理?" A4 sized paper- 1page, 6% Essay writing: "My Purpose of Studying Abroad in UK" 300wd, 14%							
評価基準	発表: 十分なりサーチを土台に、アウトラインの明確な興味深い内容準備、効果的 PPT の作成、十分な練習を経た理解しやすい発表ができたか。 英語スキット: 毎回担当したスキットをペアで暗記し、十分練習し良く演じられたか。 Report: 日本語で聞いた講義の要点を、英語のレポートに十分まとめられたか。 Essay Writing: なぜ短期留学を希望したのか個人的な理由だけでなく、留学することで何が得られるかを論理的に 3 つのポイントから指摘できているか。							
準備学修の時間	本科目の一回 (90 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 45 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	ガイダンス, Self- Introduction, *What is the UK? / UK Map / History	DVD、講義、意見交換	Day2 の Skit 準備、予習 2*
2	Unit 1, 2, 3, 4 入国審査, 税関, 初めての挨拶, *Multi-Ethnic Country / *Public transportation	スキット、発表、講義	Essay: Purpose of study abroad? 準備、Day3 の Skit 準備、
3	手続きガイダンス (JTB) 30 分、Unit 5, 6, 7, 8 家族紹介、お土産、家の中、部屋の使い方	スキット、発表、講義	Skit 実演、Essay① 提出 Day4 の Skit 準備、予習 4*
4	Unit 9, 10, 13, 14, 15 家のルール, 門限, バスルーム / 洗濯 / 掃除, *Cotswolds / Gloucestershire	スキット、発表、講義 DVD	Skit 実演、 Day5 の Skit 準備、予習 5*
5	Unit 16, 17, 18, 19 朝晩の挨拶, 頼む, 子供と遊ぶ, TV *Scotts, Wales, and Irish accents	スキット、発表、講義	Skit 実演、 Day6 の Skit 準備、予習 6*
6	Unit 20, 21, 22, 23 手伝い, わからない, 伝わらない, 明確な Yes, No *Table Manners	スキット、発表、講義	Skit 実演、 Day7 の Skit 準備、予習 7*

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
7	Unit 26, 27, 28, 29, 30 自分の家族, 趣味, 学校, 日常生活, 友達 *Popular UK design & pop-culture	スキット、発表、講義	Skit 実演、 Day8 の Skit 準備、予習 8*
8	Unit 31, 32, 33, 34, 35, 36 日本の環境, 教育, 住居, 食物, 文化・芸能 * Shakespeare plays	スキット、発表、講義	Skit 実演、 Day9 の Skit 準備、予習 9*
9	Unit 39, 40, 41, 42, 43 朝食, 夕食, 食卓の会話, 嫌いな物, 満腹 * Cuisine of the UK / * Tea culture	スキット、発表、講義	Skit 実演、 Day10 の Skit 準備、予習 10*
10	Unit 53, 54, 55, 56, 57, 58 授業の質問, fast-food, restaurant 注文と支払い *Tax of the UK	スキット、発表、講義	Skit 実演、 Day11 の Skit 準備、予習 11*
11	危機管理ガイダンス (JTB) 90分	講義、意見交換	Skit 実演、 Day12 の Skit 準備、発表準備
12	Unit 61, 62, 63, 64, 65 スーパー, デパート買物, バス・電車・地下鉄 / 期末発表 (1)	スキット、発表、評価 Q&A	Skit 実演 / 期末発表 (1) Day13 の Skit 準備、発表準備
13	Unit 80, 81, 82, 83, 84 調子が悪い, 病院, 薬局, 期末発表 (2)	スキット、発表、評価 Q&A	Skit 実演 / 期末発表 (2) Day14 の Skit 準備、発表準備
14	Unit 86, 87, 88, 89, 90, 91 困った時 (忘れもの, 盗まれる, 迷う, 助け, 謝る, 断る) 期末発表 (3)	スキット、発表、評価 Q&A	Skit 実演 / 期末発表 (3)
15	出発前ガイダンス (JTB) 60分, まとめ イギリスの EU 離脱後の事情	発表、評価、講義	期末レポート、評価表提出

テキスト	桑原功次著『ホームステイの直前英会話』(ナツメ社) 他ハンドアウト。 Mandy Barrow “Project Britain -Your Guide to British Life, Culture and Customs” http://projectbritain.com/
参考文献	「日本の情報 (英文)」 Information about Japan (link) http://www.mofa.go.jp/j_info/japan/general/index.html 『海外で困ったら、大使館・領事館のできること』(外務省)
履修条件、前提科目	今年度イギリスのグロースターシャー大学で行われる海外短期語学研修プログラムに参加することが履修の条件である。

科目名	ENG251: 留学準備 (オーストラリア)				担当教員	宮崎 幸江		
開講期	秋	開講時限	月 5 限	研究室	4217	オフィスアワー	P.16 を参照のこと	
分類	選択	単位	1	標準受講年次	1・2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-①	
キーワード	異文化理解、海外生活と安全管理の基礎知識、日本文化を紹介する英語表現							
授業の概要	この授業では、本学が認定するオーストラリアのボンド大学での約 4 週間の海外短期語学講座プログラムに参加する学生が、同プログラムに関する予備知識や、渡航、現地生活、安全管理に関する留意事項を学び、各自が目的意識を持ち留学生活を送ることができることを目指す。また、現地で積極的に交流できるようになることを目指す。							
達成目標	学生は留学先で想定される異文化体験への準備を行い、自分自身の学びと成長の軌跡を省察し、目的意識と自信をもって留学に向かうことができるようになる。自国の文化と留学先の異文化とを客観的に対比、理解できるようになるとともに、日本の文化(礼儀作法、日本の衣食住等)について学び、英語で交流する力をつける。安全に留学が完遂できるよう、海外生活に関する知識、心得、及び危機管理の方策を学ぶ。							
到達目標	(1) オーストラリア及び日本についての基本的な知識をもち、自らの視点で英語を使って発信できる。 (2) 留学の様々な場面において必要な英語表現の知識を持つ。 (3) 海外での基本的なマナー、及び危険回避について理解する。 (4) 現地で日本の文化を自分のことばで紹介できる。							
評価方法	発表 25% : オーストラリアのニュース、文化、歴史、伝統などに関して日本語で発表 英語運用能力向上のための小テスト 35% 英語で日本について紹介するスキット 20% エッセイ 20% (My study abroad 1500 words)							
評価基準	発表 : オーストラリアについて自分で調べたことについて要点をまとめて発表できているか、また、発表を聞く際に質問ができるかを評価する。 小テスト : 教科書の英会話の内容を暗記し、運用できる。 スキット : ホームステイ先で、ホストファミリーに日本の文化を説明する。 エッセイ : 留学の目的を英語で明確に述べられる。							
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均45分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	留学プログラムについて導入 ボンド大学について	講義、質疑応答、ディスカッション	ボンド大学について調べる、教科書①Unit 2~7
2	留学の意義、オーストラリアについて Unit 2~7 入国審査、税関での会話他	講義、質疑応答、ロールプレイ	教科書①Unit 8~16を読む。 プレゼン準備
3	手続きガイダンス 30分 オーストラリアについてプレゼン①	ガイダンス、講義、プレゼン、質疑応答	教科書②pp.5~13を読む
4	日本文化について②pp.5~13 「おもてなし」を英語で説明する	講義、質疑応答、ディスカッション	教科書②pp.66~73を読む。
5	日本文化「食」: ユネスコ世界遺産「和食」と「和菓子」	講義、質疑応答、ディスカッション	教科書①Unit 17~25を読む。
6	家族と親しくなるために Unit 17~25 小テスト	講義、小テスト、テストの解説	教科書②pp.78~84を読む。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
7	日本文化「飲茶の歴史」: 紅茶と緑茶の違い	講義、質疑応答、ディスカッション	教科書①Unit 31~36を読む。 テスト勉強
8	日本を紹介する Unit 31~36 小テスト	講義、質疑応答、 発表	教科書②pp.22~29を読む。
9	日本文化「住」: 和室と洋室の違い	講義、質疑応答、ディスカッション	教科書①Unit 37~49を読む。 テスト勉強
10	食事のマナーとルール Unit 37~49 小テスト	講義、小テスト、 テスト解説	教科書①Unit 51~60を読む。
11	危機管理ガイダンス	ガイダンス、総括	教科書①Unit 80~91を読む。 スキット準備
12	スキット「ホストファミリーに日本文化を紹介する」グループ1と2	発表、質疑応答	教科書①Unit 61~70を読む
13	病気やトラブル Unit 80~91 オーストラリアについてプレゼン②	講義、質疑応答、 ロールプレイ	教科書①Unit 71~80を読む。 スキット準備
14	出発前ガイダンス	ガイダンス・解説	エッセイアウトラインを書く。 スキット準備
15	スキット「ホストファミリーに日本文化を紹介する」グループ3と4	発表、質疑応答	エッセイを書く

テキスト	① 桑原功次『ホームステイの直前英会話』(ナツメ社) ② Randy Channell Soei. <i>Bilingual The Book of Chanoyu Tea...The master key to Japanese culture</i> (淡交社)
履修条件、 前提科目	今年度オーストラリアのボンド大学で行われる海外短期語学研修プログラムに参加することが履修の条件である。